

（５）小結

燈明田地区の２次にわたる調査で、二間×四間以上の南北棟（SB1001）と、二間×二間以上の同様の建物（SB1002）が、柱通りを共通して南北に並ぶことが明らかになった。これは、この地区が私たちの想定している長方形区画の西端近くに位置することとも考え合わせれば、遺跡全体の性格を考える上の大きな手がかりとなる。

この２棟の建物の時期は、いくつかの理由から五世紀後半を下らないと考えている。その根拠は、トレンチ東北部にある飛鳥時代後半以降と見られる掘立柱建物（SB2001）からさらに20～30cm下層で検出されたこと。またトレンチ中央部で東壁から西南方向に約6m続いた、幅3.6m、深さ約0.9mの溝を検出し、その溝内から6世紀初頭を下らない土師器、須恵器片が出土し、柱穴はその下層にあること、また柱の抜き取り穴から5世紀後半と見られる須恵器壺の破片がいくつか出土したことなどがその主なもので、これらを総合して考えるとおのずから時期は限定されてくる。上限についてはまだ検討の余地はあるが、下限は5世紀後半と見て良からう。

この調査で得たもう一つの大きい成果は、今回新たに飛鳥時代後半（7世紀後半）以降とみられる建物が確認されたことで、一辺120cmから150cmの柱穴掘形、径25～30cmの柱痕跡からみて、規模の大きい建築物が想定される。当時の生活面近くで出土した土器片から、その時期を考えているが、遺物の量は少なく、厳密な時期決定はさらに周辺の発掘が進んだ後にゆだねるべきだろう。

調査面積に対して検出された遺構が多いことや、その時期、規模、立地などからみて、文献に記された諸宮の伝承地と考えたくなるのは当然であろうが、その遺跡、遺物を通して歴史を復元するという考古学の立場で研究する者にとっては、この調査は確実な成果は挙げつつも、まだ緒についたばかりであり、全容はさらなる調査で解明してゆくべきであろう。

（前園）

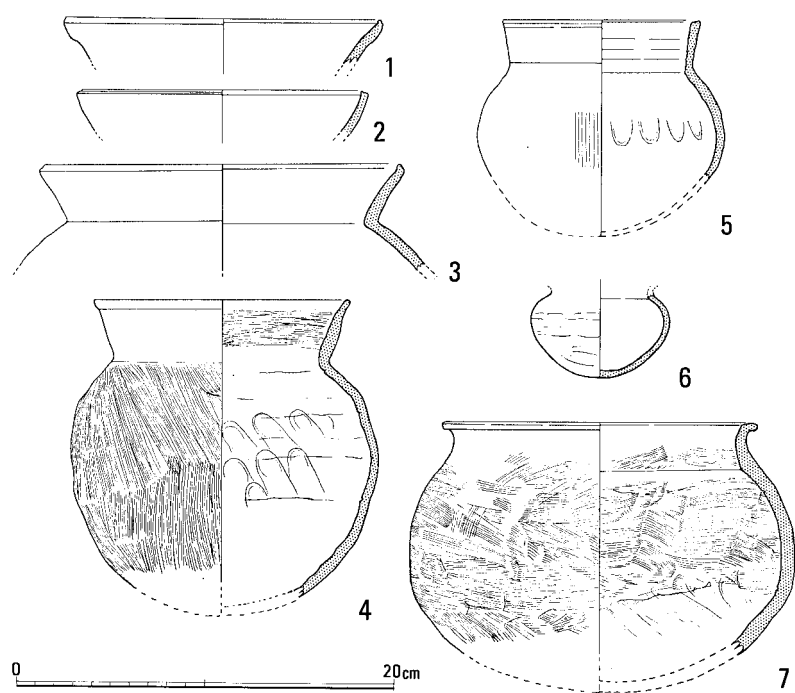


図15 脇本遺跡第1次調査出土遺物 (1) (1/4)
1～7 : S K - 1001

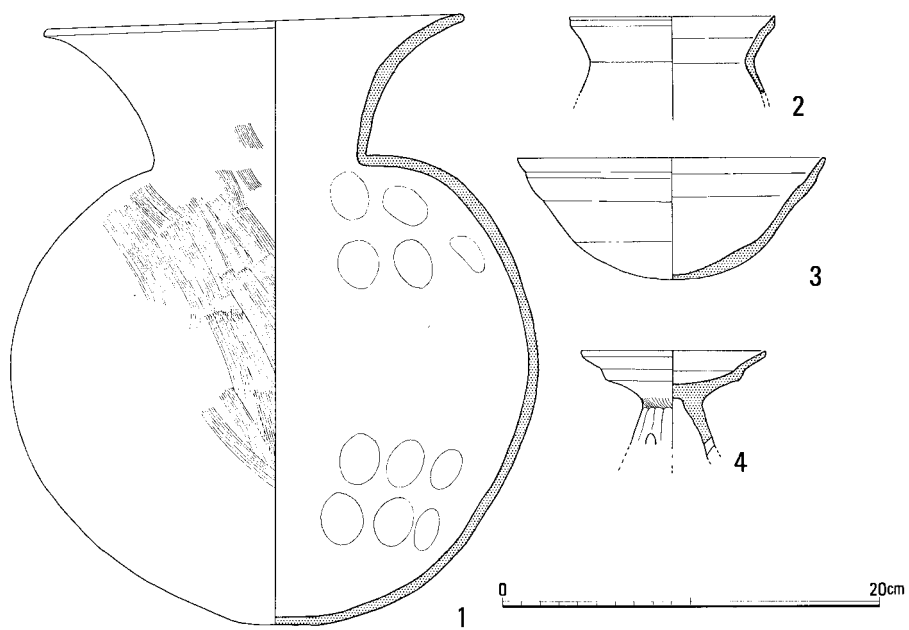


図16 脇本遺跡第1次調査出土遺物 (2) (1/4)
1～4 : C区東壁 (S X 1001)

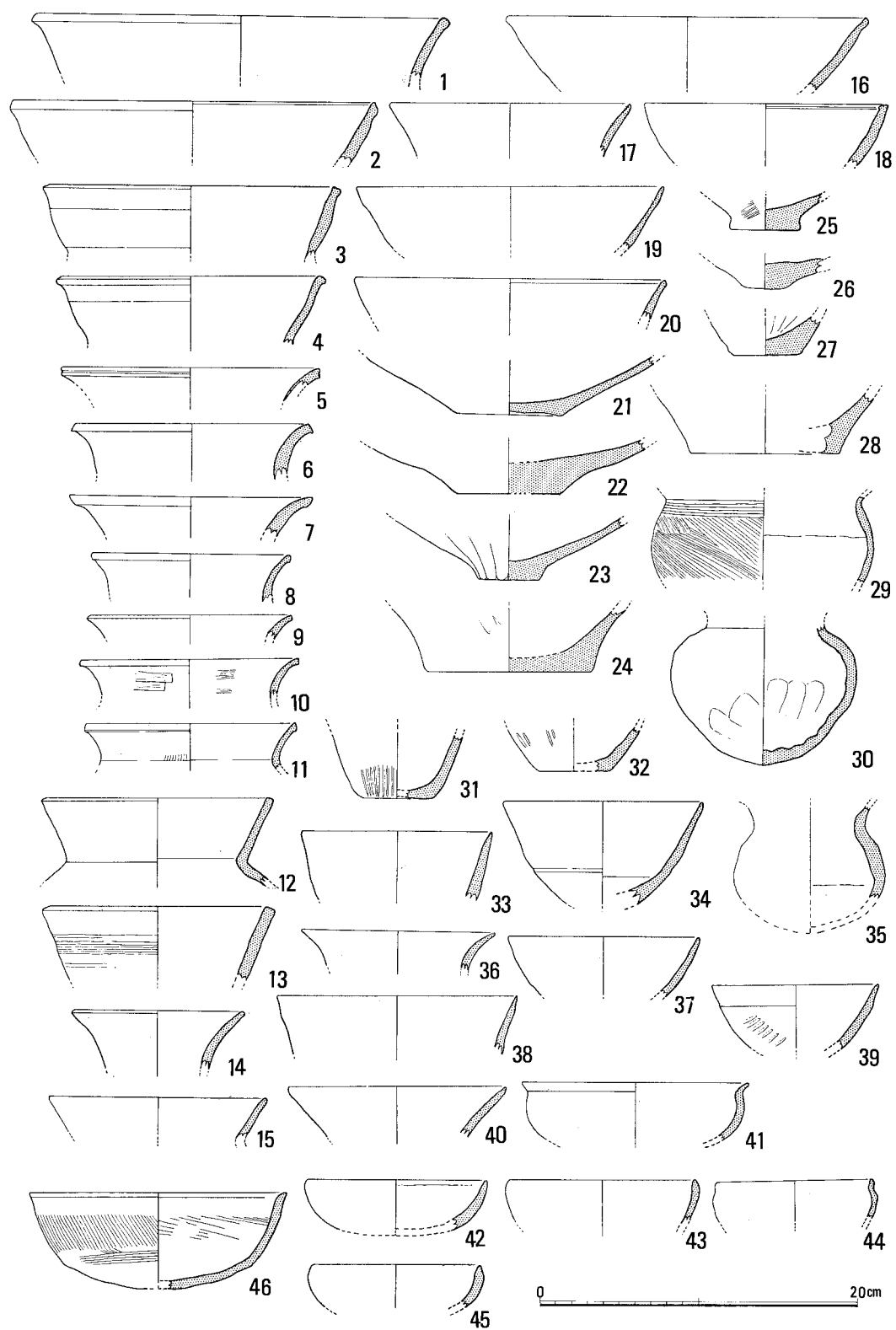


図17 脇本遺跡第1次調査出土遺物 (3) (1/4)

1・12・13・16・17・33・44：D区 2・4・7・35・39：B区
 3・9・11・14・20・21・24・27・28・36・40～42：C区
 5・6・8・10・15・18・19・22・23・25・26・29～32・34・37・38・43・45・46：A区

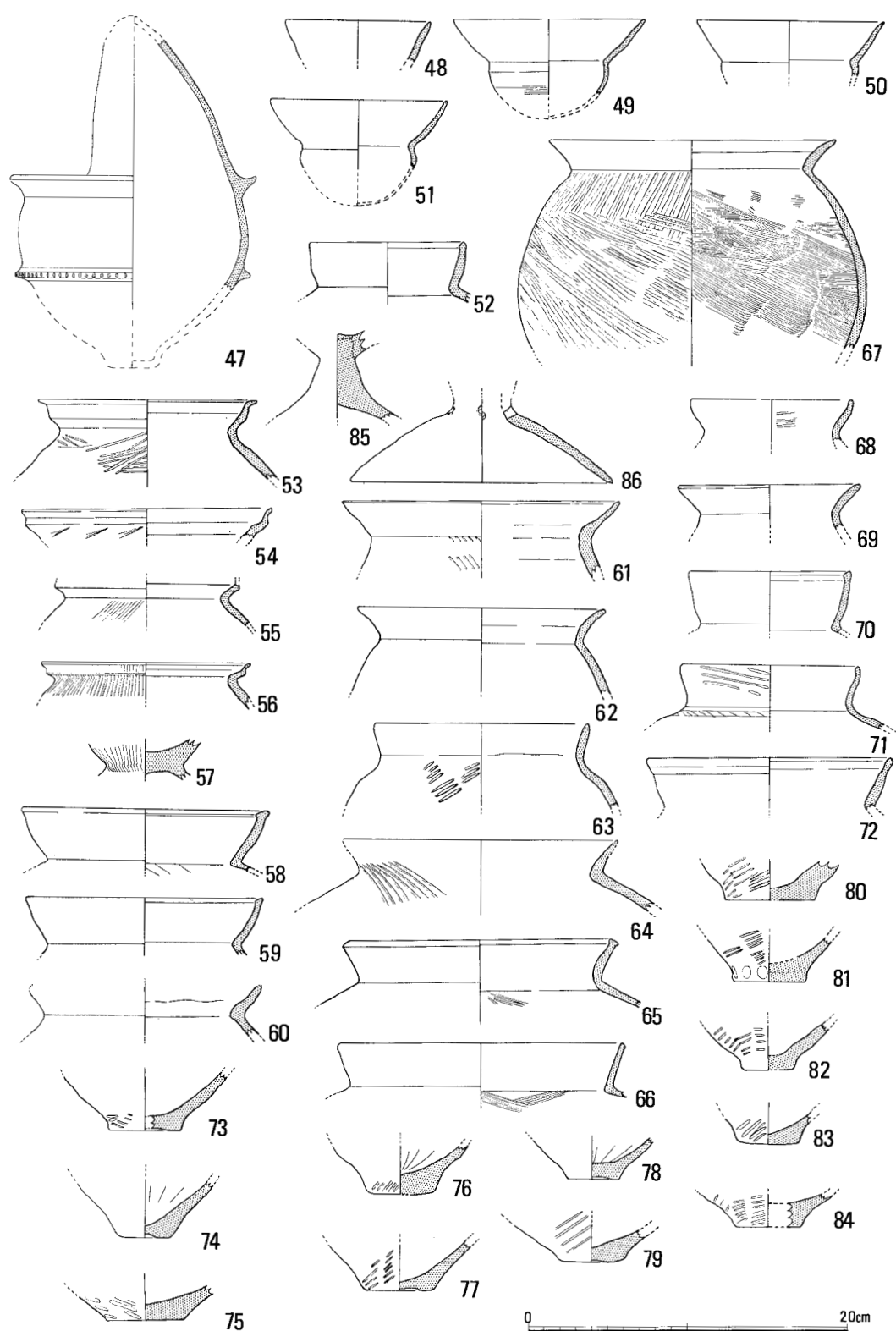


図18 脇本遺跡第1次調査出土遺物（4）（1／4）

47・49・51・56・57・62・67・74・78・86：B区 48・50・59・68・71：D区
52～55・64～66・70・72・82・84・85：C区 58・60・61・63・69・73・75～77・79～81・83：A区

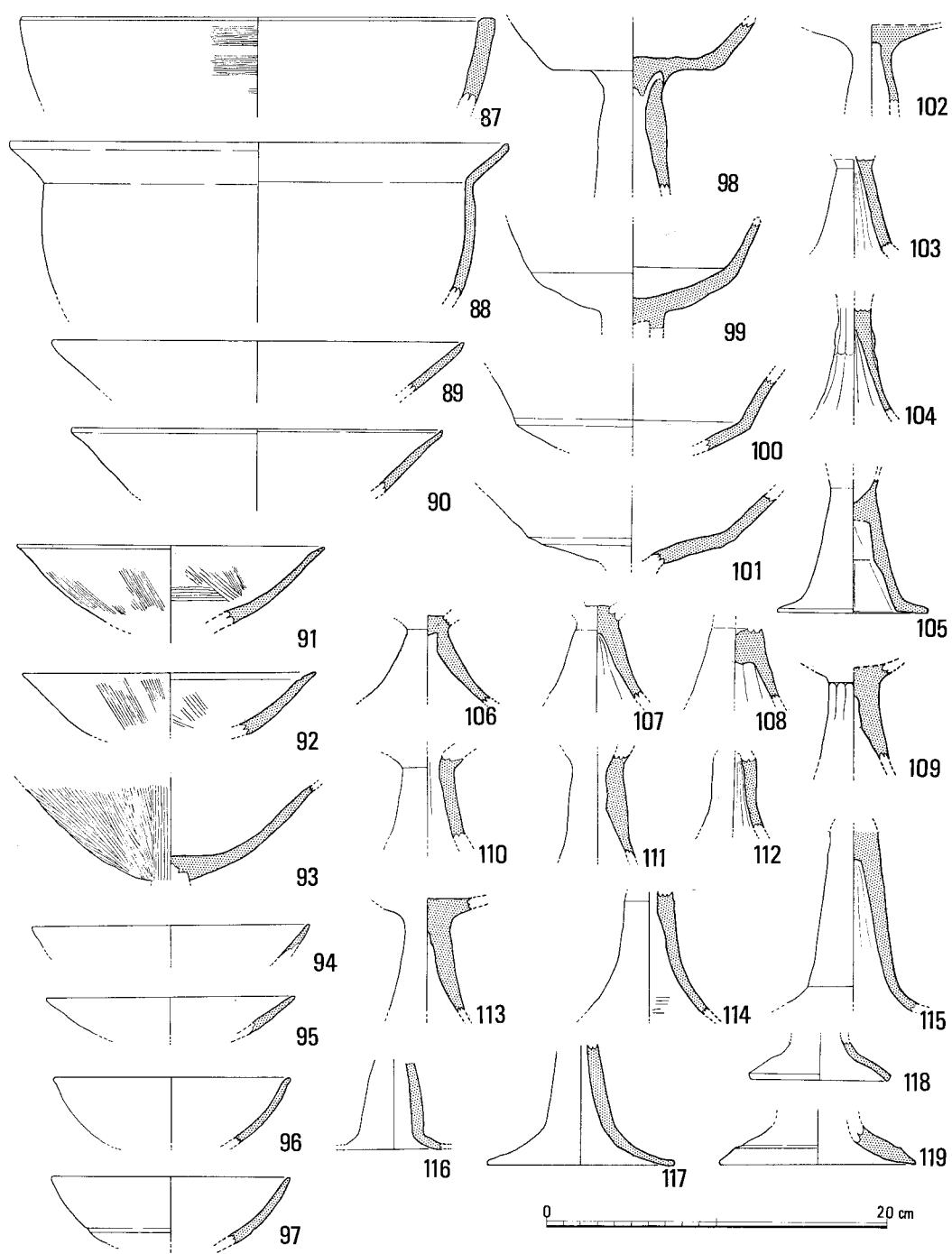


図19 脇本遺跡第1次調査出土遺物（5）（1／4）

87・89・105：B区 88・90～93・96・97・99・104・108・110・112・119：A区
 94・95・98・100～102・107・111・113～115・117・118：D区 106・109・116：C区 103：灰黒褐色土

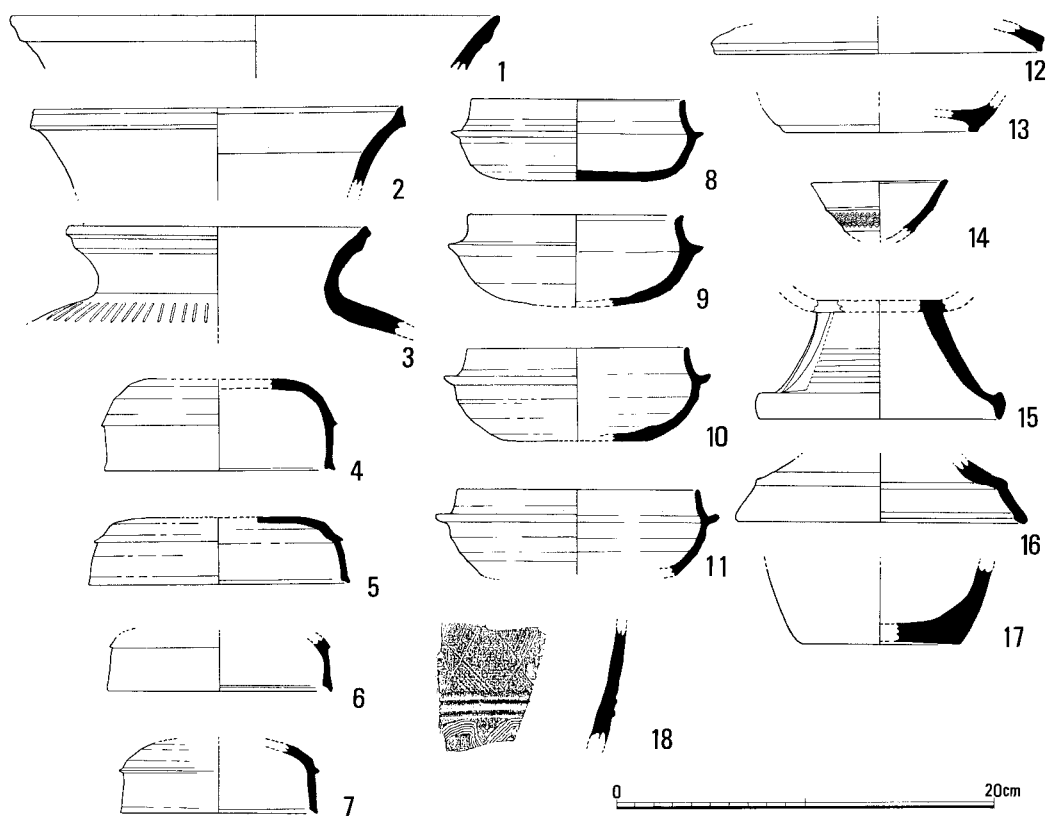


図20 脇本遺跡第1次調査出土遺物（6）（1／4）

1・3・12：A区 2・5～8・10・11・13・15・17：C区 4・9・14・16：D区 18：B区

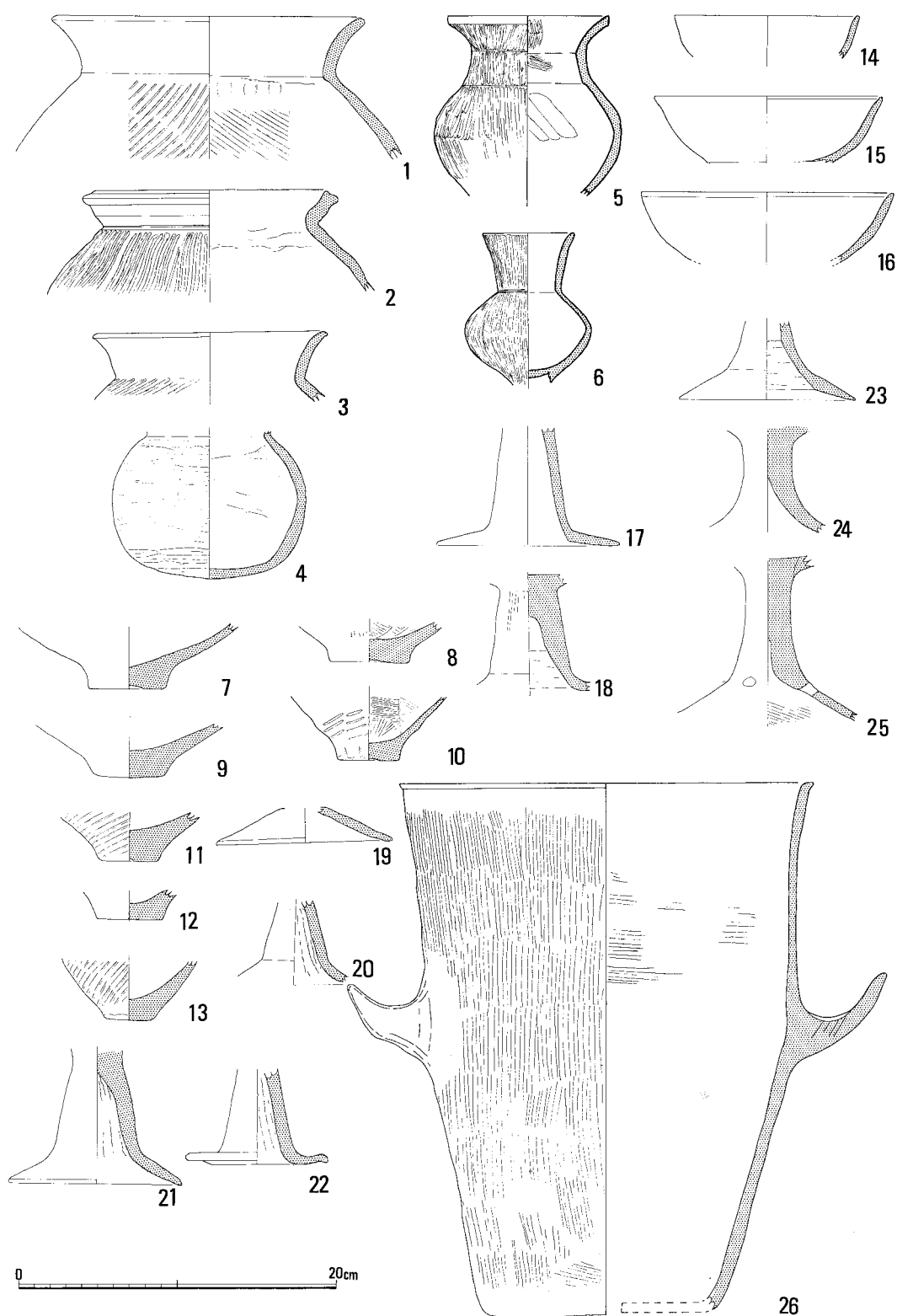


図21 脇本遺跡第2次調査出土遺物 (1) (1/4)

1・10: A区飛鳥柱穴 6: A区古墳前期土坑 3・7・8・23・24: A区 13: C区溝内
 2・17・18・20~22: C区 15・16: B区P01 26: B区土器棺2 4・11・12・25: B区 5: D区
 9: D区 14: Z区 19: Z'区

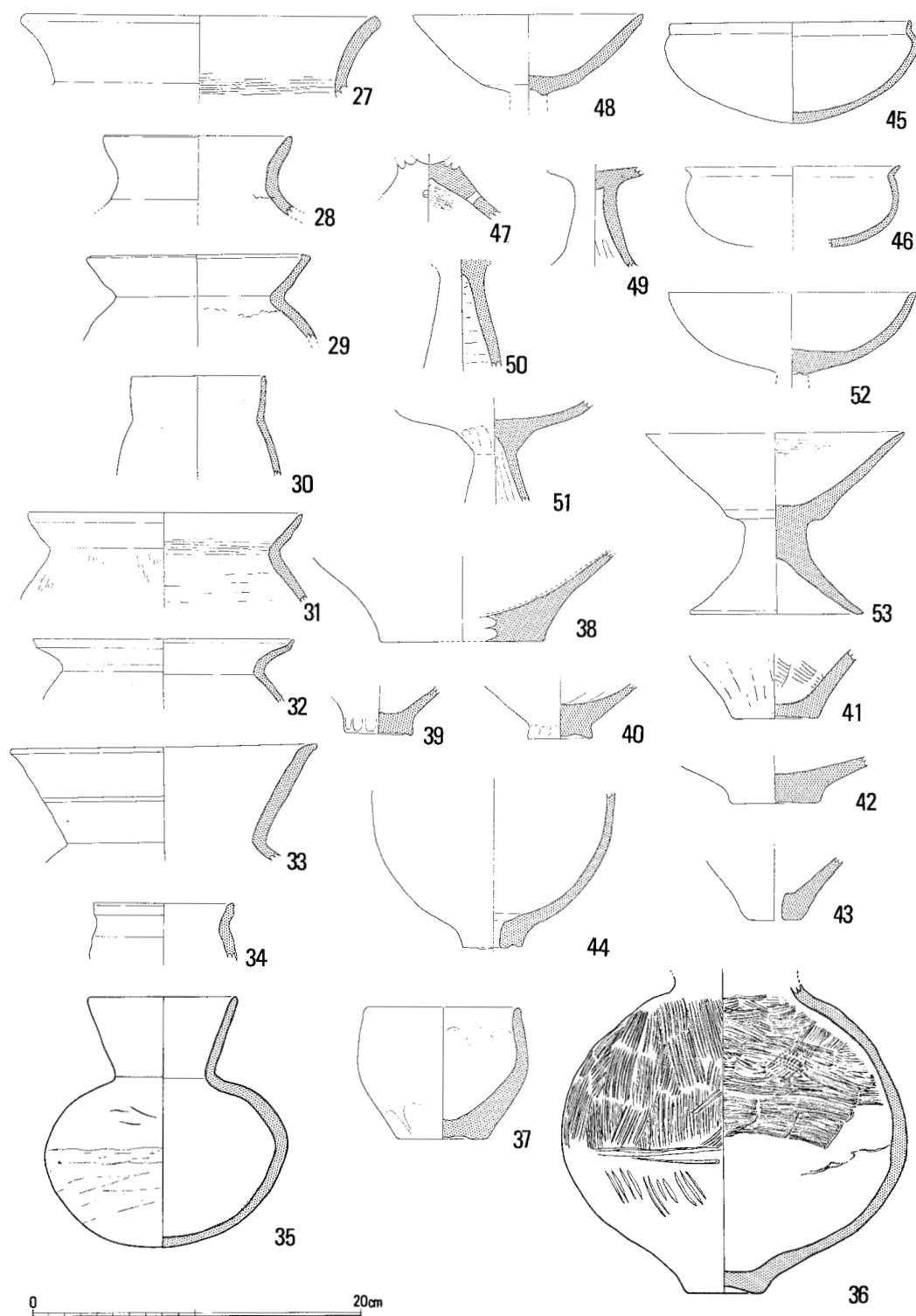


図22 脇本遺跡第2次調査出土遺物（2）（1／4）

27：C区溝内 30・45～47：C区SD05 38・48・52：C区 28：A区SK04 36：A区古墳前期土坑
 39：A区 40：A区溝内 50：A区 29・42：B区 31・34：Z'区
 32：Y区 49：Z区SD1005 33・41・53：Z区 35・43・44・51：D区 37：Z～D区溝内

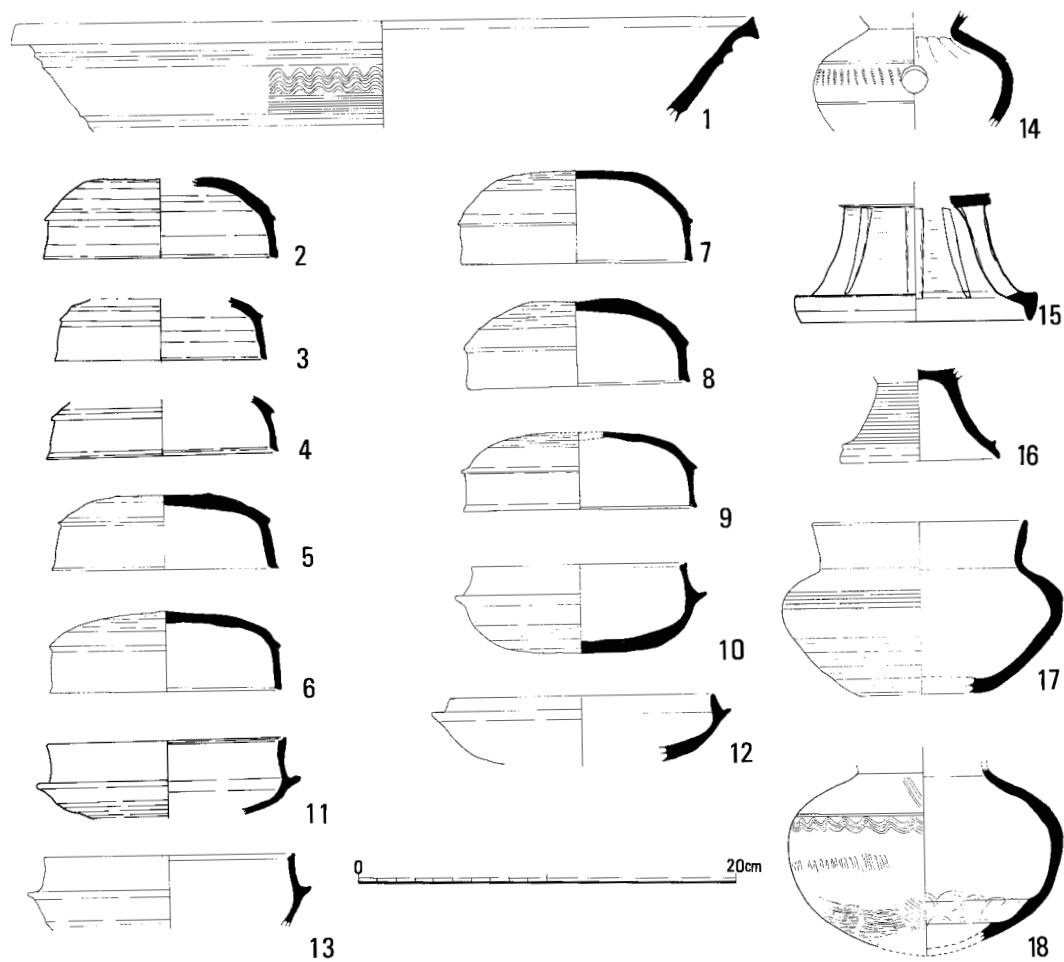


図23 脇本遺跡第2次調査出土遺物 (3) (1/4)

1・12: Z区 2・5・11・15: C区SD2001 7・10・16: C区 3・4・6・14: B区SD2001 13: B区
8: B・C区 9・18: D区 17: A区

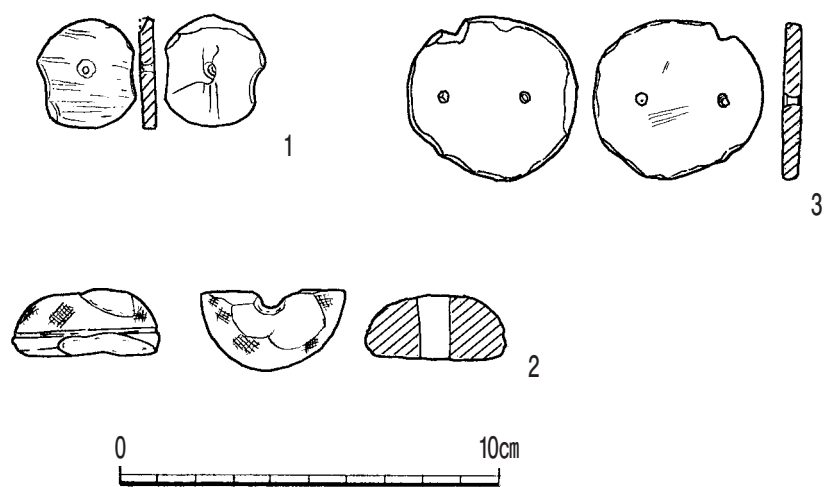


図24 脇本遺跡第2次調査出土遺物 (4) (1/2)

1・3: B区 2: D区

表5 脇本遺跡第1次調査出土遺物観察表(1)

図番号 図版番号	種 類	器 種	出 土 地	形 態	手 法	色 調 焼 胎 成 土	備 考
15-1 —	土師器	甕 (口縁)	D 区 SK1001 840604	外反する口縁は上方でさらに外へ屈曲し、端部はつまみあげがみられる。	全体に横ナデ調整。外面はその後に縦にヘラナデされている。指圧痕もみられる。	淡茶褐色～淡黄褐色 良 好 細砂を含む	
15-2 —							
15-3 —	〃	甕 (口縁)	D 区 SK1002 840604	口縁はカーブを描きながら伸び、端部は細く面をなす。	外面は横ナデの後ヘラケズリ、口縁端は横ナデ、内面は指ナデ。	茶褐色～暗褐色 やや不良 砂粒を含む	
15-4 —							
15-5 —	〃	甕	D 区 SK1002 840604	くの字形に外反する口縁を持つ。端部は上方につまみ上げられている。胴部は欠失しているが、大きく脹らみがみられそう。	口縁部は横ナデ調整。外面にはタタキ、内面には指ナデと横ナデ。	淡赤褐色～淡黄褐色 堅 い 砂粒を含む	
15-6 —							
15-7 —	〃	甕	D 区 SK1002 840604	やや直立気味の口縁は上方で外方にやや屈曲し、端部は少し薄くなっている。胴部はあまり脹らみをみせず少し凹凸している。底部は欠失している。	外面は口縁部が横ナデ調整で、体部がタテハケメ、胴中央部に黒斑あり。内面は口縁部にヨコハケメ体部は指頭ナデ調整で凹凸している。	淡黄土色 やや軟質 小石・雲母片を多く含む	
15-8 —							
15-9 —	〃	甕	D 区 SK1002 840604	ほぼ直立している口縁を持つ。	外面横ナデ調整である。体部には指ナデもみられ、その上にハケ調整される。内面は横ナデ、指頭圧痕がありススが付着している。	外：茶褐色～黒褐色 内：黒褐色 良 好 砂粒を含む	
15-10 —							
15-11 —	〃	小形丸底壺	D 区 SK1002 840604	体部のみ残存。やや肩の張った体部を持つ。	外面はヘラケズリの後に横ヘラミガキされている。内面はヘラナデ。	茶褐色 堅 い 良	
15-12 —							
15-13 —	〃	甕	D 区 SK1001 840604	短い頸部は外方にくびれ、水平方向に面をなす。口縁が大きく深さはあまりなく、横広の甕である。I	外面は全体に横ナデの後ハケメ調整。上部ヨコハケメ、下部タテハケメ、底部欠失、中央部に黒斑あり。内面は中央下より指頭ナデ有り。口縁部は灰化（他にも点在）	赤黄褐色～淡黄灰色 良 好 細粒（赤色酸化粒・雲母片）含む	
15-14 —							
16-1 —	〃	壺	C 区 東 壁 SX1001 840611	外反しながらゆるやかに伸び大きく開いた口縁、端部で平坦面を作る。肩が張り、大きく脹らんだ胴部、底部。	外面は口縁部にハケメ調整の後横ナデ、体部は約1cm幅（目は1mm）のハケメで調整。内面は指頭圧による調整。指圧痕あり。	淡茶褐色 良 良	
16-2 —							
16-3 —	〃	壺	C 区 東 壁 840611	くの字状に外反する口縁、端部は上方につまみ上げられ薄く尖っている	外面はヘラケズリとハケメで調整。口縁端は横ナデ。内面は口縁部が横ナデ後ヘラケズリ、体部は横ナデ後指ナデ。	赤褐色～茶褐色 堅 い 砂粒を少量含む	
16-4 —							
16-5 —	〃	鉢	C 区 東 壁 840611	全体に凹凸した浅鉢、口縁部下に凹線あり。口縁端は薄くなり尖り気味。	外面は底部より上部にかけてヘラケズリ、後に底部を残しヘラミガキ、黒斑あり。内面も底部を残してヘラミガキ（ヘラ間隔2mm）。	赤茶色 良 良	
16-6 —							
16-7 —	〃	高 坏	C 区 東壁壺周辺 840611	口縁は水平に近い程屈曲し外反する。体部との境には線がめぐる。脚部はなだらかに伸びる。三方透し孔あり。	口縁～中央部まで横ナデ、体部はヘラミガキとハケメ、脚部はヘラミガキ。内面磨滅のため不明。脚部にしほり目あり。	淡褐色～茶褐色 良 好 砂粒を少量含む	
16-8 —							
17-1 —	土師器	壺 (口縁)	D 区 灰黒褐色土 840519	口縁はゆるやかに外反して伸びる。端は丸い。	横ナデ調整。	淡茶褐色 良 好 砂粒を含む	
17-2 —							
17-3 —	〃	壺 (口縁)	B 区 灰黒褐色土 840510	口縁は斜め外方に直線的に伸び、先端は若干上方へつまみあげられる。	回転ナデ調整。	白褐色～白色 堅 い 砂粒を含む	
17-4 —							

表6 脇本遺跡第1次調査出土遺物観察表(2)

図番号 図版番号	種 類	器 種	出 土 地	形 態	手 法	色 調 焼 胎 成 土	備 考
17-3 44-3	土師器	壺 (口縁)	C 区 灰黒褐色土 840606	ややS字気味の口縁。	横ナデ調整。	外：淡赤褐色 内：赤褐色 良 好 細砂を含む	
17-4 44-4							
17-5 44-5	〃	壺 (口縁)	B 区 灰黒褐色土 840510	ややS字型の口縁で、端は平坦面をなす。	横ナデ調整。	淡茶褐色～淡黒褐色 良 好 細砂を含む	
17-6 44-6							
17-7 —	〃	壺 (口縁)	A 区 黒褐色土 840511	端部は面をなし、1条の凹線がある。	横ナデ調整。	淡茶褐色～黒褐色 やや軟質 5mmの小石・細砂を含む	
17-8 44-8							
17-9 44-9	〃	壺 (口縁)	A 区 灰黒褐色土 840511	口縁はゆるやかに外反し、端を平坦面で整える。	横ナデの後にハケメ。	茶褐色 良 好 砂粒を含む	
17-10 44-10							
17-11 —	〃	壺 (口縁)	B 区 灰黒褐色土 840510	ゆるやかなカーブを描いて外反する口縁。	外面は口縁部が横ナデの後ハケメ調整。体部はヘラミガキ。内面は磨滅のため不明。	茶褐色 良 好 砂粒(石英)を含む	
17-12 44-12							
17-13 44-13	〃	壺 (口縁)	A 区 灰黒褐色土 840511	やや直立気味に外反する口縁。	磨滅のため不明。	黄褐色～赤褐色 軟 質 細砂を含む	
17-14 44-14							
17-15 44-15	〃	壺 (口縁)	C 区 灰黒褐色土 840508	口縁は屈曲しながら外反し、端部は丸味を持つ。	外面はヘラケズリ。内面と口縁先端は横ナデ調整。	茶褐色 良 好 細砂を含む	
17-16 44-16							
17-17 44-17	〃	壺 (口縁)	A 区 灰黒褐色土 840526	口縁部は外反し、端部でさらに外へ屈曲し、先端に広めの平坦部を持つ。	外面は頸部ヘラケズリ、口縁端横ナデ調整。内面は横ナデの後ハケメ調整。	赤褐色～暗茶褐色 やや軟質 砂粒(石英・金雲母・黒雲母)含む	
17-18 44-18							
17-19 44-19	〃	壺 (口縁)	C 区 東壁沿 灰黒褐色土 840607	ゆるやかに外反する口縁を持つ。	横ナデ調整。 内面の頸部にハケメ。	外：茶褐色内：赤褐色 やや軟質 砂粒(石英・金雲母)含む	
17-20 44-20							
17-21 44-21	〃	壺 (口縁)	D 区 灰黒褐色土 840519	斜め外方に直線的に伸びるやや長めの口縁で、端部は丸味を持つ。	外面は口縁部が縦にヘラミガキの後ハケメ調整。体部は横ヘラミガキ。内面は磨滅のため不明。	淡黄褐色～赤褐色 良 好 細砂を含む	
17-22 44-22							
17-23 44-23	〃	壺 (口縁)	D 区 灰黒褐色土 (礫多含) 840508	口縁は斜め外方に真っすぐ伸び、端部は太く丸味を持つ。	外面は横ナデの後、櫛描き直線文を施す。内面は指ナデ調整。	茶褐色～淡赤褐色 軟 質 砂粒(石英・金雲母)を含む	
17-24 44-24							
17-25 44-25	〃	壺 (口縁)	C 区 灰黒褐色土 840518	やや直立気味に外反する口縁は、上方で大きく外方へ伸びる。	磨滅のため不明。	茶褐色～赤褐色 良 好 砂粒を多く含む	
17-26 44-26							
17-27 44-27	〃	壺 (口縁)	A 区 灰黒褐色土 840511	口縁は外反し、端部は丸くなっている。	外面は横ナデの後ハケメ。内面は横ナデ。	赤褐色 やや不良 細砂を少量含む	
17-28 44-28							
17-29 44-29	〃	壺 (口縁)	D 区 灰黒褐色土 (礫含) 840509	口縁は屈曲しながら外反し、上方で薄くなり先端で丸くふくらむ。	横ナデ調整。	鮮赤褐色 軟 質 砂粒を含む	
17-30 44-30							
17-31 44-31	〃	壺 (口縁)	D 区 灰黒褐色土 840519	口縁はややカーブを描いて外反し、先端は薄くなる。	磨滅のため不明。	赤褐色～灰褐色 やや不良 砂粒を多く含む	
17-32 44-32							
17-33 44-33	〃	壺 (口縁)	A 区 灰黒褐色土 840511	口縁の先端部は水平方向に面を作り、内面に肥厚する。	口縁部は横ナデ。外面・内面共にヘラミガキ。	茶褐色 良 好 細砂を含む	
17-34 44-34							
17-35 44-35	〃	壺 (口縁)	A 区 灰黒褐色土 840511	口縁はやや斜め外方にゆるやかに伸び、中央部と先端部が非常に薄くなっている。	横ナデ。	赤褐色 良 好 砂粒を含む	
17-36 44-36							
17-37 44-37	〃	壺 (口縁)	C 区 灰黒褐色土 840508	口縁先端はやや外反気味で、薄く丸味を持つ。	横ナデ調整。	淡褐色 良 好 砂粒を含む	
17-38 44-38							
17-39 44-39	〃	壺 (底部)	C 区 トレ東 灰黒褐色土 840606	底は若干上げ底になっており、器壁は薄くなっている。体部へと大きく伸びる。	外面は体部にタタキ、底部にヘラケズリ、内面はヘラケズリ、底部は指ナデ。	外：淡黄褐色～黒褐色 内：淡黄褐色 やや不良 砂粒を多く含む	
17-40 44-40							

表7 脇本遺跡第1次調査出土遺物観察表(3)

図番号 図版番号	種 類	器 種	出 土 地	形 態	手 法	色 調 焼 成 胎 土	備 考
17-22 45-22	土師器	壺 (底部)	A 区 灰黒褐色土 840511	安定した突出を持つ底部。	外面の体部はヘラミガキ、底部は横ナデ調整。内面は磨滅のため不明。	外：赤褐色～黒褐色 内：赤褐色 やや不良 細砂を少量含む	
17-23 45-23							
17-24 45-24	〃	壺 (底部)	A 区 灰黒褐色土 840511	小さく突出した丸い底部で安定している。	外面はヘラミガキ調整。内面は体部がハケメ、底部が指頭ナデ調整。指頭圧痕あり。	外：淡茶褐色～淡褐色 内：黒褐色 良 好 6mm小石・細砂(金雲母・石英)を少量含む	
17-25 45-25							
17-26 45-26	〃	壺 (底部)	C 区 灰黒褐色土 840508	大きく安定した底部である。	全体に横ナデ調整。外面にはタタキメ跡がある。内面底部はヘラミガキされている。	淡茶褐色～淡黒褐色 良 好 砂粒を含む	
17-27 45-27							
17-28 45-28	〃	壺 (底部)	A 区 灰黒褐色土 840511	小さく突出した丸い安定感のある底部。	外面は体部にタタキ、底部に指ナデ、底面は横ナデ調整。内面は指ナデ調整。	赤褐色～茶褐色 良 好 砂粒を含む	
17-29 45-29							
17-30 45-30	〃	壺 (底部)	A 区 灰黒褐色土 840511	短く突出した小さな底部。	外面はヘラナデの後ヘラミガキ。内面はヘラナデ。	外：灰褐色～淡茶褐色 内：灰褐色 良 好 小石(3～5mm)・砂粒を多く含む	
17-31 45-31							
17-32 45-32	〃	壺 (底部)	C 区 灰黒褐色土 840508	しっかりとした底部。底部と体部の境が明瞭でない。	外面の体部は板ナデ、底部は横ナデ。内面はヘラナデ。	茶褐色 良 細砂を含む	
17-33 45-33							
17-34 45-34	〃	壺 (底部)	C 区 灰黒褐色土 840508	若干上げ底気味の底部。器壁の厚さは不明瞭。	外面は横ナデ。内面は指ナデ。	茶褐色 良 好 砂粒を含む	
17-35 45-35							
17-36 45-36	〃	壺 (底部)	A 区 灰黒褐色土 840511	あまり脹らみを持たない体部で、頸部が薄くくびれる。	外面は頸部にヨコハケメ、胴部にタテハケメ。内面は頸部にヨコハケメ、胴部に指ナデ、粘土接合痕あり。	茶褐色 良 好 砂粒を含む	
17-37 45-37							
17-38 45-38	〃	壺 (底部)	A 区 灰黒褐色土 840511	体部のみが残存。やや肩の張った体部を持つ。底部はやや尖り気味の丸底である。	外・内面に指頭ナデ調整。内面に指頭圧痕あり。全体に凹凸している。	灰色～淡灰褐色 堅 い 2mm小石・細砂(金雲母)を含む	
17-39 45-39							
17-40 45-40	〃	壺 (底部)	A 区 灰黒褐色土 840511	底部と体部の境が明瞭でなく器壁が薄い。	外面はタタキメ調整。底部は横ナデ。内面は横ナデ、指ナデ。	外：淡茶褐色 内：黒褐色 良 好 細砂(金雲母・石英)を含む	
17-41 45-41							
17-42 45-42	〃	壺 (底部)	A 区 灰黒褐色土 840511	底部と体部の境が不明瞭である。	外面は板ナデの後にタタキを指でナデ消す。底部は横ナデ。内面は板ナデの後にハケメ。	淡茶褐色～黒褐色 良 好 砂粒を含む	
17-43 45-43							
17-44 45-44	〃	壺 (口縁)	D 区 灰黒褐色土 840519	口縁は直立気味に伸び、先端が薄く尖り気味に終る。	磨滅のため不明。	淡赤褐色～淡黄褐色 やや不良 砂粒を含む	
17-45 45-45							
17-46 45-46	〃	鉢	A 区 灰黒褐色土 840511	口縁端は薄く丸くなる。底部は欠失。	外面は横ナデ調整。内面は横ナデ、ヘラミガキ。	外：茶褐色 内：赤褐色～淡茶褐色 やや不良 小石を少量含む	
17-47 45-47							
17-48 45-48	〃	壺	B 区 灰黒褐色土 840510	口縁は上方に外反し、胴部はあまり脹らまない。	外面は頸部にハケメ、指頭圧痕。体部に横ナデ。内面は横ナデ。	外：赤茶褐色 内：黄褐色 良 好 細砂を含む	
17-49 45-49							
17-50 45-50	〃	壺 (口縁)	C 区 灰黒褐色土 840509	口縁はなめらかに外反し、先端部は薄く丸みをおびる。	横ナデ調整。	茶褐色 良 い 細砂を含む	
17-51 45-51							
17-52 45-52	〃	壺 (口縁)	A 区 灰黒褐色土 840511	口縁はややカーブを描きながら外方へ伸びる。先端は丸くなっている。	磨滅のため不明。	淡黄褐色～淡赤褐色 やや不良 砂粒を多く含む	
17-53 45-53							
17-54 45-54	〃	壺 (口縁)	A 区 暗褐色土 840427	やや直立気味に外へ伸びる口縁は薄く尖って終る。	横ナデ調整。	淡褐色～黒褐色 良 好 砂粒を多く含む	
17-55 45-55							

表8 脇本遺跡第1次調査出土遺物観察表(4)

図番号 図版番号	種 類	器 種	出 土 地	形 態	手 法	色 焼 胎 調 成 土	備 考
17-39 —	土師器	鉢	B 区 灰黒褐色土 840510	口縁は薄くなり尖り気味に終る。 底部は欠失している。やや深めの 小鉢。	外面は体部にタタキ、 他は磨滅により不明。	赤褐色 やや不良 細砂を含む	
17-40 45-40							
17-41 45-41	〃	壺 (口縁)	C 区 灰黒褐色土 840509	口縁は斜め外方に真つすぐ伸び、 先端は若干つまみ上げられている。	磨滅のため不明。	赤褐色 不 良 砂粒 (石英・金雲母) 含む	
17-42 45-42							
17-43 45-43	〃	杯	C 区 tr東 灰黒褐色土 840606	口縁端は薄く尖り気味に終る。	横ナデの後にヘラミガ キ、口縁部は横ナデの み。	外：茶褐色内：赤褐色 良 好 砂粒 (馬・金雲母) を 含む	
17-44 45-44							
17-45 45-45	〃	杯	A 区 灰黒褐色土 (礫含) 840509	欠失部分が多く全体像が不明瞭。 口縁は直立気味でやや内傾をみせ る。	横ナデ調整。	淡黒褐色 良 好 砂粒を含む	
17-46 48-46							
17-47 44-47	〃	手焙型 土 器	D 区 灰黒褐色土 (礫層) 840529	肩が張った体部に屈曲する短い口 縁が付く。	横ナデ調整。	赤褐色～淡茶褐色 良 好 砂粒を含む	
17-48 45-48							
17-49 46-49	〃	小 形 丸底壺 (口縁端)	A 区 SD1003より 北1.2m 840515	口縁はやや内傾している。先端は 若干つまみ上げられている。	外面は口縁部に横ナデ 調整。胴部にハケメ、 底部はナデ。内面は口 縁部が横ナデ、体部は ハケメ調整。	淡褐色～黒褐色 良 い 砂粒を含む	
17-50 46-50							
17-51 44-51	〃	杯	A 区 SD1003より 北1.2m 840515	底部からやや扁平気味に屈曲をみ せる。口縁部は短く外反する。	外面は口縁部に横ナ デ、胴部はハケメ調 整。底部はナデ。内面 は口縁部が横ナデ、体 部はハケメ。	淡褐色～黒褐色 良 い 砂粒を含む	
17-52 44-52							
17-53 44-53	〃	手焙型 土 器	B 区 灰黒褐色土 840510	口縁部は短く外反し、胴中央部に 短く突帯がめぐり、突帯には刻み 目紋が施されている。底部は欠失 している。	磨滅により不明。	外：赤褐色～淡黄褐色 内：淡赤褐色～灰褐色 軟 質 粗く砂粒を多く含む	
17-54 46-54							
17-55 46-55	〃	小 形 丸底壺 (口縁端)	D 区 灰黒褐色土 (礫層) 840529	口縁端は小さく屈曲し外反する。 先端は薄く尖り気味。	横ナデ調整。	赤黄褐色 良 好 砂粒を含む	
17-56 46-56							
17-57 46-57	〃	小 形 丸底壺	B 区 灰黒褐色土 840510	やや外反気味に伸びる口縁。	外面は横ナデの後ハケ メ。内面は体部が横 ナデ、口縁部が横ナデ 後ヘラミガキ。	淡黄褐色 やや軟質 細砂を多く含む	
17-58 46-58							
17-59 46-59	〃	小 形 丸底壺 (口縁)	D 区 灰黒褐色土 840521	口縁はなめらかに伸び、先端が薄 く尖って終わる。	外面は横ナデ調整。内 面は口縁部がヘラミガ キ、体部が横ナデ。	赤褐色 良 好 精 良	
17-60 46-60							
17-61 46-61	〃	小 形 丸底壺 (口縁)	B 区 灰黒褐色土 840515	なだらかにカーブして伸びる口縁、 先端は丸い。	全体に横ナデ調整。内 面口縁部には指ナデ調 整もあり。	淡黄褐色 不 良 砂粒を含む	
17-62 46-62							
17-63 46-63	〃	甕 (口縁)	C 区 灰黒褐色土 840509	斜めに少し延びた頸部からほぼ直 立する口縁。端部は丸く、内面に 肥厚している。	外面は横ナデ調整。内 面は横ナデ、横ヘラミ ガキ。	茶褐色～淡褐色 良 好 細砂を少量含む	
17-64 46-64							
17-65 46-65	〃	S 字状 台付甕 (口縁)	C 区 灰暗褐色土 840606	S 字状の口縁を持つ。先端はほぼ 水平に外反をみせ、器壁が薄く 尖っている。肩部は屈曲している があまり張りを持たない。	全体に横ナデ調整。外 面の体部に横ナデの後 ハケメ、粘土接合痕あ り。	白褐色～黒褐色 堅 い 良 好	東海の土 器
17-66 46-66							
17-67 46-67	〃	S 字状 台付甕 (口縁 端)	C 区 暗灰褐色土 840606	S 字状の口縁。先端は非常に薄く なり外反する。	横ナデ調整。外面に ヘラ押圧文あり。	白褐色 良 好 砂粒を含む	東海の土 器
17-68 46-68							
17-69 46-69	〃	S 字状 台付甕 (頸部)	C 区 tr東 灰黒褐色土 840606	S 字状の口縁を持つと思われる。	外面はナナメハケメ調 整。内面は横ナデの後 ハケメ。口縁部は外・ 内共に横ナデ調整。	白褐色～白灰色 不 良 砂粒を多く含む	東海の土 器
17-70 46-70							

表9 脇本遺跡第1次調査出土遺物観察表(5)

図番号 図版番号	種 類	器 種	出 土 地	形 態	手 法	色 調 焼 胎 成 土	備 考
18-56 —	土師器	S字状 台付甕 (口縁)	B 区 灰黒褐色土 840510	S字状の非常に短い口縁。	外面は回転ナデの後タテハケメ。内面はナデ調整。口縁部は外・内共に回転ナデ	灰白色 やや不良 細砂を含む	東海の土器
18-57 —		台 付 甕 (底部)	B 区 灰黒褐色土 840510	底部の中央部でやや脹らみを持つ。台の付いた甕底。	外面はヘラナデの後にハケメ。底部は指ナデ。体部と底部の境目はヘラで押さえてある。内面は指ナデ調整。	灰白色 やや不良 砂粒を含む	
18-58 46-58	〃	甕 (口縁)	A 区 灰黒褐色土 840511	口縁はカーブを描いて屈曲し、端部はわずかに外反し、内面に肥厚する。器影が頸部よりかなり厚い。	外面は横ナデ調整。内面はヘラケズリ調整。口縁は後に指ナデ。口縁端は横ナデのみ。	赤褐色～淡黄褐色 軟 質 砂粒を含む	
18-59 46-59		甕 (口縁)	D 区 灰黒褐色土 840519	ゆるやかなカーブを描いて屈曲した口縁は、端部で内面に肥厚する。	横ナデ調整。	淡茶褐色 良 好 砂粒を含む	
18-60 46-60	〃	甕 (口縁)	A 区 暗灰褐色土 840507	くの字型の短い口縁を持つ。	外面は横ナデ調整。内面は口縁部が指ナデ調整。指圧痕あり。頸部が横ナデ調整。	白褐色 外が堅く、内がややもろい 砂粒を多く含む	
18-61 46-61		甕 (口縁)	A 区 灰黒褐色土 840511	くの字に外反する口縁で器壁が薄くなる。体部はあまり肩が張らない。	外面はタタキ調整。口縁部は外・内共に横ナデ。内面に粘土接合痕あり。	黒褐色 良 い 3mm小石・細砂を含む	
18-62 46-62	〃	甕 (口縁)	B 区 灰黒褐色土 840510	くの字に外反する口縁。体部はあまり脹らまない様子。	外面はヘラミガキ調整で、口縁部に横ナデ。内面は横ナデ調整。	外：淡赤褐色 内：赤褐色 良 好 細砂を少量含む	
18-63 46-63		甕 (口縁)	A 区 灰黒褐色土 ?	少し外傾した直線的な口縁を持つ。肩部は張っている。	外面の体部は右上りのタタキ。内面の体部は指ナデ。外・内共に口縁部は横ナデ。	茶褐色～赤褐色 良 好 砂粒を含む	
18-64 46-64	〃	甕 (口縁)	C 区 灰黒褐色土 840507	くの字型の口縁。端部は薄くなっていく。先端の外面が欠けている。体部は大きく張りをみせる。	外面はタタキ調整。内面に粘土接合斑あり。	明黄白色～明赤白色 不 良 小石・砂粒を多く含む	
18-65 46-65		甕 (口縁)	C 区 礫層SD2001 840426	内側にカーブを描いて外反する口縁。端部で平坦面を作り内面に肥厚している。	外面は横ナデ調整。内面は口縁部が横ナデ。頸部にハケメ調整。	白 色 不 良 砂粒を多く含む	
18-66 46-66	〃	甕 (口縁)	C 区 tr東 灰黒褐色土 840606	やや外に向って直立する口縁。器壁が非常に薄い。	口縁部は外内共に横ナデ。内面の体部はヘラナデ調整。	淡褐色～淡黒褐色 良 好 細砂を含む	
18-67 43-67		甕	B 区 灰黒褐色土 840510	くの字型に外反する短い口縁。体部にくらべて口縁の器壁は厚い。肩は張らず胴部で大きく脹らむ。	外面は体部にタタキ、内面はハケメ、指圧痕あり。口縁部は外・内共に横ナデ調整。	淡茶褐色～黒褐色 良 好 砂粒を少量含む	
18-68 46-68	〃	甕 (口縁)	D 区 灰黒褐色土 840528	ややカーブを描きながら直立する口縁。先端は丸い。	外・内共に横ナデ。内面にハケメ調整あり。	茶褐色 良 好 細砂を含む	
18-69 46-69		甕 (口縁)	A 区 灰黒褐色土 840511	くの字型の口縁。頸部でわずかに突出をみせる。	横ナデ調整。	茶褐色 良 好 砂粒(金雲母・馬雲母)を含む	
18-70 46-70	〃	甕	C 区 灰黒褐色土 (礫含) 840508	わずかにカーブを描いてほぼ直立する口縁。先端は内面に肥厚している。	外・内共に横ナデの後ハケメ調整。	淡褐色～茶褐色 良 好 細砂(金雲母)を含む	
18-71 46-71		甕	D 区 灰黒褐色土 (礫多含む) 840508	ややカーブを描く直立気味の口縁。端部で内傾し、先端は丸味を持つ。肩の張った体部を持つ様子。	外面はタタキ調整。内面は横ナデ調整。	茶褐色～淡黒褐色 軟 質 細砂(石英・金雲母)を含む	
18-72 46-72	〃	甕 (口縁)	C 区 灰黒褐色土 (礫含) 840508	斜め外方に直線的に伸び上部でやや外反をみせる口縁。先端は丸い。	外・内共に横ナデ調整。外面は横ナデ後にハケメ。	淡褐色 良 好 細砂(石英・金雲母)を含む	

表10 脇本遺跡第1次調査出土遺物観察表(6)

図番号 図版番号	種 類	器 種	出 土 地	形 態	手 法	色 調 焼 胎 成 土	備 考
18-73 46-73	土師器	甕 (底部)	A 区 灰黒褐色土 840511	短く突出したややあげ底の底部。	外面の体部はタタキメ、底部はヘラミガキ。内面は指ナデの後ハケメ調整。	外：赤褐色～黒褐色 内：赤褐色 良 好 3mm小石・砂粒を含む	
18-74 47-74							
18-75 47-75	〃	甕 (底)	B 区 灰黒褐色土 840510	小さく突出した底面は、あげ底になっておりやや不安定。	外面の体部にタタキ調整。内面の体部は板ナデを少しナデ消す。	淡茶褐色 良 い 3mm小石・細砂を少量含む	
18-76 47-76							
18-77 47-77	〃	甕 (底)	A 区 東壁断ち割り部 灰黒褐色土 840526	安定した平底である。	外面はタタキ調整。外面底部及び内面は磨滅のため不明。	外：淡茶褐色 内：黒褐色 良 い 砂粒を含む	
18-78 47-78							
18-79 47-79	〃	甕 (底)	A 区 灰黒褐色土 840511	突出した底部はあまり安定していない。底部の器壁はかなり厚い。	外面は板ナデの後タタキを施し、さらに指でナデ消している。底面はナデ調整。内面は板ナデ、指ナデ。	外：茶褐色 内：黒褐色良 好 砂粒を含む	
18-80 47-80							
18-81 47-81	〃	甕 (底)	A 区 灰黒褐色土 840511	底部と体部の境が明瞭でなく、少し上げ底にして器壁を薄くしている。	外面体部は板ナデの後にタタキ、底部凸面はヘラナデ、凹面は指ナデ。内面は指ナデ、ハケメ調整。	茶褐色 良 好 砂粒を含む	
18-82 47-82							
18-83 47-83	〃	甕 (底)	B 区 灰黒褐色土 840510	短く突出した小さい底部は上げ底になっている。	外面は体部にヘラミガキの後ハケメ、底面はナデ。内面はヘラミガキ。	外：黒褐色～淡茶褐色 内：淡茶褐色 良 好 小石・細砂を含む	
18-84 47-84							
18-85 47-85	〃	甕 (底)	A 区 灰黒褐色土 840511	底部と体部の境が明瞭でなく、わずかに上げ底となっている。底面は丸味をおび不安定。	外面にタタキ、底部は指ナデ。内面は板ナデの後指ナデ。	茶褐色 良 い 砂粒(石英)を含む	
18-86 47-86							
18-87 47-87	〃	甕 (底)	A 区 灰黒褐色土 840518	安定した平底で、底面部より体部の器壁がかなり厚みを持つ。	外面はタタキ調整で、底部にヘラナデ。内面は指ナデ調整。	外：淡茶褐色 内：灰褐色 良 好 6mm小石・砂粒を含む	
18-88 47-88							
18-89 47-89	〃	甕 (底)	A 区 灰黒褐色土 840511	安定した底部。底部と体部の境めがわかる。	外面は体部に右上りのタタキ調整。下部に指圧痕。底面部はヘラナデ。内面はナデ。	茶褐色～赤褐色 良 好 5mm小石・砂粒を含む	
18-90 47-90							
18-91 47-91	〃	甕 (底)	C 区 t r 東 灰黒褐色土 840606	短く突出した小さい底部。	外面は体部にタタキ、底部は横ナデ調整。内面はナデ調整。底部との境に指圧痕あり。	外：茶褐色 内：黒褐色 良 好 砂粒を少量含む	
18-92 47-92							
18-93 47-93	〃	甕 (底)	A 区 灰黒褐色土 840511	底部と体部の境が明瞭でなく、やや不安定な底部。	外面は体部にタタキメ、底部はナデ。内面は荒いハケメ調整。	茶褐色 良 好 5mm小石・砂粒を多く含む	
18-94 47-94							
18-95 47-95	〃	甕 (底)	SD2001 840507	突出した底部の器壁は太い。	外面に右上りのタタキメがあり、底部がナデ調整。内面はヘラナデ調整。	外：淡褐色～淡赤褐色 内：黒褐色 堅 い 細砂(金雲母・石英)を少量含む	
18-96 47-96							
18-97 47-97	〃	器 台 (筒部)	C 区 礫層 840427	柱状の筒部は中実で短く、裾部は大きく開いていくと思われる。	外面は杯部が横ナデ、筒部がヘラナデの後に縦にヘラミガキ。内面は杯部底面が指ナデ、裾部がナデ調整。	淡赤褐色～淡黄褐色 やや軟質 砂粒を含む	
18-98 47-98							
18-99 47-99	〃	器 台 (裾)	B 区 灰黒褐色土 840510	裾部は脹らみを持ちながら大きく開く。透し孔(4孔?)がある。	外面の裾部はヘラミガキ、筒部との境は横ナデ。内面はナデ、裾下部は指ナデ。	暗褐色～茶褐色 良 好 細砂を含む	
18-100 47-100							
19-87 -	〃	鉢 (口縁)	B 区 灰黒褐色土 840126	斜め外方に真っすぐ伸びる口縁。先端は太く丸味をおびた方形。	横ナデ調整。外面には櫛描き直線文が施されている。	茶褐色 良 い 砂粒(石英)を多く含む	
19-88 -							

表11 脇本遺跡第1次調査出土遺物観察表(7)

図番号 図版番号	種 類	器 種	出 土 地	形 態	手 法	色 調 焼 胎 成 土	備 考
19-88 47-88	土師器	鉢	A 区 灰黒褐色土 840511	斜め外方にゆるやかに伸びる大きな口縁で、先端部はわずかにつまみ上げられている。体部はあまり脹らまない。口縁部との境部(頸部らしき部分)の器壁が薄い。	内・外共に横ナデの後ハケメ。	外：淡茶褐色 内：淡赤褐色 軟 質 3mmの小石砂粒を含む	
19-89 —							
19-90 47-90	〃	高 杯 (口縁)	B 区 灰黒褐色土	口縁は斜め外方に真っすぐに伸びる。先端が薄くなっている。	外・内面共に横ナデ調整。	赤褐色 良 細砂を少し含む	
19-91 43-91/93							
19-92 47-92	〃	高 杯 (口縁)	A 区 灰黒褐色土 840511	外反する口縁は上方でやや屈曲して、さらに外方へ伸びる。先端は薄くなり小さくつまみ上げられている。	外面は横ナデ、指ナデの後ハケメ。内面は横ナデの後ハケメ。	赤褐色 やや軟質 砂粒を含む	
19-93 43-91/93							
19-94 47-94	〃	高 杯 (口縁)	A 区 灰黒褐色土 840511	ゆるやかにカーブをしながら外方に伸び、端部で屈曲し水平に突き出る口縁部先端は薄くなっている。	内面は横ナデの後ハケメ調整。	茶褐色 良 細砂を含む	図19-93 と同一個体
19-95 47-95							
19-96 47-96	〃	高 杯 (口縁)	A 区 礫層 840426	カーブを描いて外反する口縁は、端部内面に凹線をめぐらせる。先端は薄く尖り気味。	外・内面共に横ナデの後ハケメ調整。	淡黄褐色土～赤褐色 良 好 砂粒を多く含む	
9-93 43-91/93							
19-97 47-97	〃	高 杯 (杯身)	A 区 灰黒褐色土 840511	丸くカーブを描き外反する杯身。口縁、脚部は欠失。	外面はタテハケメ調整。内面は横ナデの後ハケメ調整。下部に長方形のくぼみがある。	外：淡赤褐色 内：淡黄白色 良 好 砂粒(金雲母・石英)を含む	図19-91 と同一個体
19-98 47-98							
19-99 47-99	〃	高 杯 (口縁)	D 区 灰黒褐色土 (礫含) 840509	薄く尖り気味の口縁端。	外・内面共に横ナデ調整。	赤褐色 不 良 砂粒を含む	
19-100 47-100							
19-101 47-101	〃	高 杯 (口縁)	D 区 灰黒褐色土 840508	斜め外方に伸びる口縁部。先端はやや薄くなる。	外面は横ナデ調整。内面は磨滅のため不明。	淡赤黄褐色 不 良 細砂を含む	
19-102 —							
19-103 47-103	〃	高 杯 (口縁)	A 区 東壁断ち割り部 灰黒褐色土 840526	ゆるやかなカーブを描いて外方に伸びる口縁。先端でわずかに外反をみせる。	内・外共に磨滅して不明。	淡茶褐色 良 好 細砂を含む	
19-104 47-104							
19-105 47-105	〃	高 杯 (口縁)	A 区 灰黒褐色土 840511	ゆるやかなカーブを描いて外方に伸びる口縁。下部に一条の凹線がめぐる。	外面はヘラミガキ後ハケメ調整。内面はハケメ調整。	外：淡黄褐色～淡赤褐色 内：淡黄褐色～黒褐色 やや軟質 小石・砂粒を多く含む	
19-106 47-106							
19-107 47-107	〃	高 杯	D 区 (断割部) 灰黒褐色土 840528	平坦な杯部底面から直線的に伸びる杯身。筒部はやや中脹らみになっている。全体に凹凸した作り。	外面の杯部は横ナデ、筒部はヘラミガキ。内面は横ナデ調整。	淡茶褐色 良 好 砂粒(石英)を含む	
19-108 43-99							
19-109 47-109	〃	高 杯	A 区 SD1003 北に1.2m 840515	杯部は胃曲して立ち上る。	内・外共に磨滅ではっきりしないが、ヘラケズリの後ハケメを施していると思われる。	外：茶褐色～赤褐色 内：黄褐色～赤褐色 良 砂粒を多く含む	
19-110 47-110							
19-111 47-111	〃	高 杯	D 区 灰黒褐色土 840528	杯部底面から直角に屈曲している。	磨滅により不明。	淡赤褐色～淡黄褐色 軟 質 細砂を含む	
19-112 43-101							
19-113 47-113	〃	高 杯	D 区 灰黒褐色土 840528	杯部底面から外反して伸び、中程で屈曲し大きく伸びる。	外面は横ナデ、底部にヘラミガキ、軽い指圧痕が多数。横ナデの後ヘラミガキ。	赤褐色 良 好 7mm小石・砂粒を多く含む	
19-114 47-114							
19-115 47-115	〃	高 杯	D 区 灰黒褐色土 (礫含) 840509	杯部は欠失が多く形態は不明。筒部は中程で脹らみをみせる。器壁は薄い。	外面は筒部に縦ヘラミガキ。内面は筒部にヘラナデの後横ナデ。他部は磨滅のため不明。	赤褐色～黒褐色 軟 質 砂粒を含む	
19-116 47-116							
19-117 47-117	〃	高 杯 (筒部)	灰黒褐色土 840511	すらりと伸びる筒部。	外面はヘラミガキ。内面はしほりを消すため右から左ヘラケズリしている。	赤褐色 良 好 砂粒(金雲母)を含む	
19-118 47-118							
19-119 47-119	〃	高 杯 (筒部)	A 区 灰黒褐色土 840511	筒部は下方へ薄くなりながら広がる。上方に粘土を付着した跡がみられる。	外面はヘラミガキとハケ目調整。指頭圧痕あり。内面はしほり。	淡赤褐色 良 好 砂粒・小石を少量含む	
19-120 47-120							

表12 脇本遺跡第1次調査出土遺物観察表(8)

図番号 図版番号	種 類	器 種	出 土 地	形 態	手 法	色 調 焼 胎 成 土	備 考
19-105 —	土師器	高 坏 (脚部)	B 区 灰黒褐色土 840510	筒部は下方で水平に広がり、先端は面をつくる。	外面は板ナデの後にヘラミガキ。内面は板ナデの後横ナデ調整。縦横にハケメ。底部はヘラミガキ。	淡黄褐色 良 好 小石・砂粒（石英）を含む	
19-106 47-106	〃	高 坏 (筒部)	C 区 灰黒褐色土 (礫含) 840508	浅めの底面と短い筒部を持つ。	外面は杯部にハケメ、筒部にタテヘラミガキ。内面は杯底面ナデ、筒部はしほり後一部横ナデ。	淡茶褐色 良 好 砂粒（金雲母・石英）を含む	
19-107 48-107	〃	高 坏 (筒部)	D 区 礫層 840426	筒部は薄くなりながら広がる。	外面はヘラミガキ、下方にハケメあり。内面はしほりを横ナデで消している。	赤茶褐色 良 好 細砂を少量含む	
19-108 48-108	〃	高 坏 (筒部)	A 区 灰黒褐色土 840511	底部の厚みにくらべて筒部の器壁が薄い。	外面はヘラケズリ。内面はしほりを左から右へヘラケズリで粗雑に調整している。	茶褐色 良 好 小石・砂粒を含む	
19-109 48-109	〃	高 坏 (筒部)	C 区 灰黒褐色土 840515	筒部の器壁は下に行くに従って薄くなる。	外面は杯部横ナデ、筒部縦にヘラミガキ。内面はしほり後に横ナデで消している。	赤褐色 良 好 細砂を含む	
19-110 48-110	〃	高 坏 (筒部)	A 区 灰黒褐色土 840511	筒部は下方へすらりと伸びる。	外面はヘラミガキ。内面にしほりあり。	赤褐色～黄褐色 やや不良 砂粒を多く含む	
19-111 48-111	〃	高 坏 (筒部)	D 区 灰黒褐色土 (礫多含) 840508	筒部は中程で脹らみを持ち、下方で薄くなる。	外面は斜めにヘラミガキ。内面の上部～中央はしほり後指ナデ。下部は横ナデ。	淡黄褐色～淡灰褐色 堅 い 細砂（石英・金雲母）を含む	
19-112 48-112	〃	高 坏 (筒部)	A 区 暗灰褐色土 840502	筒部上方で脹らみをみせ、中程でわずかに内傾し、裾部へ広がってゆく。	外面は縦にヘラミガキ。内面はしほり、一部横ナデ調整。	外：淡赤褐色 内：灰褐色 軟 質 砂粒（石英・金雲母）を含む	
19-113 48-113	〃	高 坏 (筒部)	D 区 灰黒褐色土 (礫多含) 840508	下に行く程器壁が薄くなっていく筒部。	外面の筒部上方は横ナデ、中央部はヘラミガキ。内面は筒部上方しほり、中央部横ナデ、杯底部は磨滅。	赤褐色 軟 質 細砂（石英・金雲母）を含む	
19-114 48-114	〃	高 坏 (筒部)	D 区 灰黒褐色土 840521	なだらかに開く筒部である。	外面は指ナデ調整。内面の筒上部はナデ、中央部しほり、一部指ナデ。下部は指ナデ、ハケメ調整	淡黄褐色～淡赤褐色 良 好 砂粒を含む	
19-115 48-115	〃	高 坏 (筒部)	D 区 灰黒褐色土 840427	すらりと長く伸びる筒部。	外面は筒部が板ナデ、裾部は横ナデ。内面は筒上部にしほり、下部～裾部に横ナデ。	白褐色 やや不良 砂粒を含む	
19-116 48-116	〃	高 坏 (筒部)	C 区 灰黒褐色土 840508	筒部は下へ行く程脹らみ、裾部との境部で内傾をみせ、裾部は水平方向に伸びる様子。	磨滅のため不明。	黄灰褐色（部分的に黒点あり） やや良 不良、砂粒が多い。	
19-117 —	〃	高 坏 (筒部)	D 区 灰黒褐色土 840508	筒部はすらりと伸び、下方で大きく開く。	外面は上下にヘラミガキ調整。内面は多角形状にハケメ調整。	淡黄褐色 良 良	
19-118 —	〃	高 坏 (裾部)	D 区 灰黒褐色土 840518	裾部は脹らみを持ち、端部に平坦面を作る。	外面は裾上部をヘラで押さえてあり、裾部はヘラミガキ。先端は横ナデ？	赤褐色 良 好 細砂を少量含む	
19-119 48-119	〃	高 坏 (裾部)	A 区 暗灰褐色土 840501	裾部の器壁は厚く、端部に一条の凹線をめぐらせている。先端は非常に薄くなり尖っている。	外面は横ナデ、先端部が指ナデ調整。内面は指ナデ、先端部は横ナデ調整。	赤黄褐色 良 い 細砂（金雲母・石英）を少量含む	
20-1 —	須恵器	壺 (口縁端)	A 区 灰黒褐色土 840515	外反する口縁、端部に平坦面を作る。	回転ナデ調整。	外：青灰色 内：灰白色 堅 い 良	

表13 脇本遺跡第1次調査出土遺物観察表(9)

図番号 図版番号	種 類	器 種	出 土 地	形 態	手 法	色 調 焼 胎 成 土	備 考
20-2 48-2	須恵器	壺 (口縁端)	C 区 拡張表土 840531	なだらかに外反する口縁、端部は立ち上っていて面を作る。	全体に回転ナデ調整。 外面は口縁下にカキ目あり。	青灰色 堅 い 細砂を少量含む	
20-3 48-3			A 区 礫層 840426	短い頸部に短く外反する口縁。口縁端で面を作り、凹線がめぐり、体部は大きく張る。	全体に回転ナデ調整。 外面は体部に回転ナデ後に叩き目。内面は頸部に灰付着。	灰白色～暗灰色 堅 い 細砂(石英)を含む	
20-4 —	〃	杯 蓋	D 区 灰黒褐色土 840518	口縁部は垂直に下った後、端部で少し内傾する。天井部は浅く平らで、口縁部との境は鋭く断面三角形を呈す。	外面は口縁～中央部が回転ナデ、底部にヘラケズリ。内面は回転ナデ。	青灰色 堅 い 砂粒を含む	
20-5 48-5			C 区 灰黒褐色土 840508	口縁部は垂直に下る。端でわずかに外傾し、先端はシャープな内傾面をもつ。天井部は浅くやや扁平である。口縁部との境は鋭く断面三角形を呈す。	外面は口縁部が横ナデ、体部がヘラケズリ。内面は(横)ナデ。	黒褐色 良 良	
20-6 48-6	〃	杯 蓋	C 区 礫層 840427	口縁部は垂直に下る。天井部は欠失しているが扁平気味。口縁部との境は鋭い。	回転ナデ調整。	青灰色 堅 い 細砂を含む	
20-7 48-7			C 区 灰黒褐色土 840508	口縁部はほぼ垂直に下がり、端部は内傾面をもつ。天井部は欠失しているが、ふくらみを持つ。口縁部との境は鋭く断面三角形を呈す。	外面の口縁部は横ナデ、体部はヘラケズリ。	黒褐色 良 良 微砂粒を含む	
20-8 43-8	〃	杯 身	C 区 黒灰褐色土 841109	口縁部はやや内傾して立ち上り、端は丸くなっている。受部は水平に突出している。体部は扁平である。	全体に横ナデ調整。外面の体部はヘラケズリ後横ナデ。口縁先端ヘラで調整	黒灰色(底部灰色) 良 良 微砂粒を含む	
20-9 43-9			D 区 灰黒褐色土 (礫含)	内傾し端でやや外反する短い立ち上りの口縁部。受部は水平に鋭く突き出ている。体部はやや浅め。	外面は中央部回転ナデ、底部はヘラケズリ。	灰色～青灰色 堅 い 細砂をわずかに含む	
20-10 43-10	〃	杯 身	C 区 灰黒褐色土 840509	口縁はやや内傾して立ち上り、端は丸くなっている。受部は外上方に突出する。体部はやや扁平。	外面は体部にヘラケズリ後全体に横ナデ調整。内面は横ナデ。	灰色 良 良	
20-11 48-11			C 区 黒灰色土 840508	立ち上りは内傾した後ほぼ直立し、端部は丸くなる。受部は外上方に突き出、丸くシャープさが無い。体部はやや深め。	外面は体部ヘラケズリ後横ナデ。他、口縁・内面は横ナデ調整。	灰色 良 良 微砂粒を含む	
20-12 48-12	〃	高 杯 (脚部)	A 区 赤褐色土 840526	大きく開く裾部。端部には面を作っている。	回転ナデ調整。	灰白色 堅 い 細砂を含む	
20-13 48-13			C 区 赤褐色土 840425	浅い底面に内傾した高さ5mmの高台がつく。	回転ナデ調整。	青灰色 堅 い 細砂(金雲母)を少量含む	
20-14 —	〃	高 杯 (杯部)	D 区 暗灰褐色土 840427	杯部は外反し屈曲をみせ、再び外方に向ってなだらかに伸びる。口縁部下に凹線がめぐり、下に櫛描波状文が施されさらに下に線がめぐり、	全体に回転ナデ調整。 外面口縁部下に10本の櫛描波状文。	灰白色 堅 い 細砂を含む	
20-15 48-15			C 区 灰黒褐色土 840508	脚部はなだらかに開き、裾部で急に大きく開き薄くなる。端に大きな面がある。長方形の透し(3つ)が施されている。	回転ナデ調整。	灰色 良 良	
20-16 —	〃	脚 台 (脚端)	D 区 灰黒褐色土 840519	脚の裾部で屈曲し、端部内側に肥厚する。	横ナデ調整。	淡茶褐色～赤褐色 良 好 細砂を少量含む	
20-17 48-17			C 区 東壁 840607	平たく安定した底部から急カーブで体部が伸びる。底部と体部の境界は明瞭でない。	外面は不定方向のナデ調整。内面は回転ナデ、底部はユビナデ。	灰白色 堅 い 細砂を少量含む	
20-18 —	〃	器 台	B 区 灰黒褐色土 840510	破片。		灰茶褐色～暗青灰色 堅 緻 良 好(大)	

表14 脇本遺跡第2次調査出土遺物観察表(1)

図番号 図版番号	種 類	器 種	出 土 地	形 態	手 法	色 調 焼 成 胎 土	備 考
21-1 52-1	土師器	壺	A 区 暗灰褐色土 SB2001の 柱穴の間 850405	くの字形の口縁、端部で面をつくる。	外面は口縁部がハケメ、体部がタタキメ。内面はハケメ。	外：茶褐色～灰茶褐色 内：茶褐色 良 い 小石・雲母片を含む	
21-2 52-2							
21-3 52-3	〃	壺	C 区 暗灰褐色砂質土 850306	口縁は短く外反し厚みを持つ。先端で肥厚面を作り凹線がめぐる。	外面の体部に太い(2mm幅)のハケメ。内面の体部は指頭ナデ。	黄褐色 良 い 小石・砂粒(赤色酸化粒・雲母)を含む	
21-4 49-4							
21-5 49-5	〃	壺	A 区 暗灰褐色土 SB2001の間 850405	斜め外方に伸びる口縁は中央でやや屈曲をみせ外反する。先端に平坦面をつくる。	外面は口縁が横ナデ、体部がタタキメ。口縁は外・内方に横ナデ。	淡赤褐色土 良 い 砂粒(小石・雲母片)を含む	
21-6 49-6							
21-7 52-7	〃	壺	B 区 暗灰褐色砂質土 850306	体部はあまり脹らまずやや扁平な形。口縁部は欠失。	外面はヘラミガキ、底部はヘラケズリ。内面はナデ調整。	淡黄赤褐色土 良 い 砂粒(小石・雲母片)を含む	
21-8 49-8							
21-9 49-9	〃	壺	D 区 840604	口縁部は外反し、端部で厚くなり平坦面をつくる。頸部は長く直立気味で、なだらかに体部が伸びる。胴部と口縁の脹らみはほぼ同じ大きさである。	外面はタテヘラミガキ調整。内面は口縁がタテヘラミガキ、頸部がヨコヘラミガキ、胴部に指頭圧痕あり。	赤褐色 堅 い 小石・雲母片を含む	
21-10 49-10							
21-11 49-11	〃	台付 小型壺	A 区 SK2001 850408	斜め外方に直線的に伸びる長い口縁は端部で小さく外反し、先端は丸くなって終る。胴部はだ円形に脹らみを持ち器台がつくとみられる。	外面は口縁部がタテヘラミガキ、胴部がヨコヘラミガキ、頸部に細くヘラアトがめぐる。内面は口縁部がヨコナデ調整。	茶褐色 堅 い 小石・雲母片少し含む	
21-12 52-12							
21-13 52-13	〃	壺	A 区 SB2001の間 850405	突出した底部は中央部でわずかに上げ底になっている。体部は大きく脹らむ様子。	外面はタテミガキ。内面はナデ調整。	淡茶褐色 良 良	
21-14 52-14							
21-15 52-15	〃	壺(底)	A 区 暗灰褐色土 東溝 850227	厚く突き出た安定した底部、底面中央にくぼみがある。	外面にタタキメ跡が残る。内面は荒いハケメ。	外：白茶色内：黒灰色 堅 い 小石(8mm)、砂粒(金雲母)を多く含む	
21-16 52-16							
21-17 52-17	〃	壺	D 区 暗灰褐色土 850304	突出した底部はやや不安定。	外・内面はナデ調整。外面に黒斑がある。	外：淡茶褐色 内：暗灰色 良 い 小石(5mm)の砂粒を含む	
21-18 52-18							
21-19 52-19	〃	壺(底)	A 区 暗灰褐色土 SB2001の間 850405	厚く突き出た安定した底部はわずかに上げ底になっている。胴部の器壁は薄く凹凸している。	外面の体部はタタキ、底部に指頭ナデ。内面はタテ・ヨコにハケメ調整。	暗茶褐色～黒灰褐色 やや軟質 良	
21-20 52-20							
21-21 52-21	〃	壺(底)	B 区 暗灰褐色土 850323	突出した底部の器壁はかなり厚い。	外面の体部にタタキ、底部にナデ。内面ヘラケズリ。	淡灰褐色 良 い 砂粒を多く含む	
21-22 52-22							
21-23 52-23	〃	壺(底)	B 区 暗灰褐色土 850304	安定した底部を持つ。	磨滅により不明。	外：茶褐色 内：暗灰褐色 良 い 小石	
21-24 52-24							
21-25 52-25	〃	壺(底)	C 区 SD2001 850305	体部と底部の境が明瞭でなく、突出した底部はやや不安定。	外面はタタキ。内面はナデ。	赤褐色 良 い 砂粒を含む	
21-26 52-26							
21-27 52-27	〃	杯	Z 区 暗灰褐色土 850304	中央部でやや屈曲し、外方に直線気味にのびる。口縁部は丸い。	磨滅により不明。	褐色 良 い 小石・砂粒(赤色酸化粒・雲母片)を含む	
21-28 52-28							
21-29 52-29	黒色 土器	椀	B 区 暗灰褐色土 850227	ゆるやかにカーブを描き、口縁部でやや外反する。端部はやや薄くなり丸みを持つ。	外 内面はヨコヘラミガキ。	外：黄褐色 内：黒色 堅 い 小石・雲母片少し含む	
21-30 52-30							

表15 脇本遺跡第2次調査出土遺物観察表(2)

図番号 図版番号	種 類	器 種	出 土 地	形 態	手 法	色 調 焼 胎 成 土	備 考
21-16 52-16	黒色 土器	椀	B 区 暗灰褐色土 850227	口縁端部と下方の器壁が薄くなる。	磨滅により不明。	外：暗黄褐色 内：黒色 堅 い 小石・雲母片を含む	
21-17 52-17							
21-18 52-18	土師器	高 杯 (脚部)	C 区 暗灰褐色土 850305	筒部はやや脹らみを持ち、裾部は水平気味に大きく開く。	外面は横ナデ調整。 内面はヘラケズリ。	外：淡黄褐色土 内：白灰色 堅 い 良 好	
21-19 52-19							
21-20 52-20	〃	高 杯 (筒部)	C 区 暗灰褐色土 850304	筒部は内面が中央部で屈曲し外反する。裾部との境で器壁がかなり細くなる。	外面はタテハケメ。 内面は横ハケメ。	赤褐色 良 好 砂粒を少し含む	
21-21 49-21							
21-22 52-22	〃	高 杯 (脚部)	Z'区 暗灰褐色土 850304	大きく開く裾部、端部で面をつくる。	外・内共にヘラミガキ。	茶褐色 良 好 砂粒を少量含む	
21-23 52-23							
21-24 52-24	〃	高 杯 (筒部)	C 区 暗灰褐色土 850305	筒部は下へいく程脹らみを持ち、裾部との境目でわずかに内傾し、裾部は大きく外へ開く。	外面はヘラミガキ。内面はシボリ。	赤褐色 良 好	
21-25 49-21							
21-26 52-26	〃	高 杯 (脚部)	C 区 暗灰褐色土 850330	筒部は中程で脹らみをみせ、裾部はなめらかに開く。裾先端は平坦面を持つ。	ナデ調整。内面はシボリ。口縁部に黒斑あり。	黄褐色 良 好 砂粒を少量含む	
21-27 52-27							
21-28 52-28	〃	高 杯 (脚部)	C 区 暗灰褐色土 850305	すらりと伸びた筒部。裾部は水平方向に開き、端部は浮き上り面を作る。	外面はヘラミガキ。 内面はシボリ。	赤褐色土 良 い	
21-29 52-29							
21-30 52-30	〃	高 杯 (脚部)	A 区 暗灰褐色土 850304	短く裾ひろがりの筒部に大きく開く裾部は内面で直角気味に屈曲をみせ、裾の先端は薄くなり失る。			
21-31 52-31							
21-32 52-32	〃	高 杯 (脚部)	A 区 暗灰褐色土 取り残部分 850304	短めの筒部である。	横ナデ調整。	赤黄白色 良 い 小石・砂粒を含む	
21-33 52-33							
21-34 52-34	〃	高 杯 (脚部)	B 区 暗灰褐色土 850304	すらりと長い筒部。裾部と筒部の境めに三方透し孔がある。	外面はヘラミガキ。内面はナデ、指頭圧痕あり。	淡茶褐色 良 い 小 石 (4mm)・砂 粒を 少量含む	
21-35 52-35							
21-36 52-36	〃	甗	B 区 土器棺 850227	口縁は短く外反し、把手は上向きで屈曲をみせながら外反する。把手先端はやや尖りぎみ。底部は欠失しているが、五ヶの孔(穴)があったと思われる。	外面はタテハケメ、下部にヨコハケもみられる。上部に黒斑あり。内面はヨコハケメ調整。黒斑あり。	明黄褐色 良 好 砂粒を含む。	
21-37 52-37							
22-27 53-27	〃	壺 (口縁)	C 区 850305	ゆるやかに外反する口縁。	ヨコナデ。	赤褐色～赤黄褐色 良 小石・砂粒を含む	
22-28 53-28							
22-29 53-29	〃	壺 (口縁)	A 区 SD2001 850330	中央部で屈曲し外反する。さらに端部で小さく屈曲し、先端は尖って終る。	外・内共に横ナデ。粘土接合痕あり。	淡赤褐色土 良 好 小石・砂粒を含む	
22-30 53-30							
22-31 53-31	〃	甗 (口縁)	B 区 SD2001 850329	くの字型で、先端で内面に小さく肥原する。	外・内共に横ナデ調整。 粘土接合痕あり。	赤褐色 良 好 砂粒を多く含む	
22-32 53-32							
22-33 53-33	〃	甗 (口縁)	C 区 SD2001 850329	ほぼ直立する口縁、体部はあまり脹らまない。	磨滅により不明瞭。	明黄褐色土 良 好 良 好	
22-34 53-34							
22-35 53-35	〃	甗 (口縁)	Z' 区 850330	くの字型口縁、中央部で内側に少しくぼみを持つ。	外面はハケメ。 内面はナデ。	黄褐色土 良 い 良 い	
22-36 53-36							
22-37 53-37	〃	甗 (口縁)	Y 区 850318	くの字型口縁、先端部はつまみ上げがみられ、面を作っている。	外・内共に横ナデ調整。	茶褐色 やや軟質 小石・砂粒(雲母片) を含む	
22-38 53-38							
22-39 53-39	〃	壺 (口縁)	Z 区 掘り下げ部分 850522	斜め外方に直線的に伸びる口縁、端部で面を作る。中央部に薄く稜あり。	外・内共に横ナデ。	茶褐色 やや軟質 砂粒を多く含む	
22-40 53-40							
22-41 53-41	〃	壺 (口縁)	Z' 区 赤褐色土 850226	短い口縁はほぼ直立している。体部はあまり脹らまないとみられる。	磨滅により不明。	暗黄褐色土 良 小石・雲母片を少量含む	
22-42 53-42							

表16 脇本遺跡第2次調査出土遺物観察表(3)

図番号 図版番号	種 類	器 種	出 土 地	形 態	手 法	色 調 焼 胎 成 土	備 考
22-35 50-35	土師器	壺	D 区 SK13-4 850408	斜め外方に直線的に長く伸びる口縁、胴部が大きく張り、底は丸底で安定しない。	外面は頸部から胴部がヘラナデ、胴から底部がヘラケズリ。	赤褐色 堅 い 良 好	
22-36 49-36							
22-37 50-37	〃	小鉢	Z~D区 850307	口縁は短く外反し、やや脹らみを持った胴部から底部へと内傾していく。底部と体部の境は不明瞭で、底面はややあげ底になっている。	外面の体部上方はタテハケメ、下方にタタキメがある。中央部から底面まで灰化している。内面の体部上方はヨコハケメ、粘土接合痕あり。	赤褐色 堅 い 砂粒(赤色酸化粒・雲母片)少し含む	
22-38 49-38							
22-39 53-39	〃	壺 (底部)	C 区 東壁断面 暗灰褐色砂層 850409	大きく安定した底部。	外面はハケメ(?) 内面は剥離している。	淡赤褐色~暗灰褐色 良 い 砂粒を含む	
22-40 53-40							
22-41 53-41	〃	壺 (底部)	A 区 850306	底面は若干上げ底になっている。	体部は外・内共に横ナデ。底部外側面に指頭ナデ。	淡黄褐色 良 い 砂粒を多く含む	
22-42 53-42							
22-43 53-43	〃	壺	A 区 850306	体部と底部の境は明瞭でなく、あげ底になっている。	外面は底部側面に指頭圧痕。内面はハケメ。	黄茶白色 軟 質 良 い	
22-44 53-44							
22-45 50-45	〃	壺 (底部)	Z 区 850330	底面はわずかにあげ底になっている。	外面はケズリのちタテミガキ。内面はハケメ、底部指頭圧痕。	外: 暗灰褐色 内: 黒灰褐色 軟 質 砂粒を多く含む	
22-46 53-46							
22-47 53-47	〃	壺	B 区 黄褐色砂質土 850307	安定した底面はわずかにあげ底気味。	指頭圧痕あり。	淡黄褐色土 良 好 砂粒を含む	
22-48 53-48							
22-49 53-49	〃	甌 (底部)	D 区 暗灰褐色土 850305	底面中央部には孔(穴)がひとつある。	外面はタタキ。 内面はハケ。	淡茶灰色 良 砂粒を多く含む	
22-50 50-44							
22-51 50-45	〃	甌	D 区 850408	胴部は丸くしなやかに脹らむ。底部は小さく突出し、中央部に孔(穴)がある。	外面はハケ調整。 内面は磨滅により不明。	赤褐色 良 好 砂粒(石英)を含む	
22-52 50-45							
22-53 53-46	〃	浅鉢	C 区 SD2001 850329	短い口縁はほぼ直立している。少し肩の張った丸底の浅鉢。造りが悪く凹凸している。	外面は指ナデ、横ナデの後ヘラミガキ調整。 内面は横ナデの後ヘラミガキ。口縁部は外・内共に横ナデ。	赤褐色 良 好 細砂(赤色酸化粒・金雲母)を含む	
22-54 53-46							
22-55 53-47	〃	鉢	C 区 850329	短く外反する口縁。胴部と口縁の径はほぼ同じである。	外面はハケメ、ヘラケズリ。内面はハケメ。	明黄褐色 良 良	
22-56 53-47							
22-57 53-48	〃	器台	C 区 SD2001 850329	形態は不明。四方透し孔がある。	内面はハケメ。	明赤褐色 良 良	
22-58 53-48							
22-59 53-49	〃	高杯 (杯部)	C 区 850330	直線的にすらりと伸びる杯身、口縁端は尖り気味。	磨滅により不明。	赤褐色 軟 質 小石・砂粒を多く含む	
22-60 53-49							
22-61 53-50	〃	高杯 (筒部)	Z 区 西 850318	杯部は底面が残るのみで、脚部は柱状の筒部が残るのみ。	外面はヘラミガキ。 内面はヘラケズリ。シボリあり。	赤褐色 良 小石・砂粒を含む	
22-62 53-50							
22-63 53-51	〃	高杯 (筒部)	A 区 断ち割り 850330	柱状の筒部が残るのみ。	磨滅により不明。	淡黄褐色 良 小石・砂粒を含む	
22-64 53-51							
22-65 53-51	〃	高杯	D 区 850318	浅い杯部と細めの筒部。	ヘラミガキ。 外面は指頭圧痕あり。 内面はシボリあり。	赤褐色~黄茶褐色 良 良	
22-66 53-51							
22-67 49-52	〃	高杯 (杯部)	C 区 850330	ゆるやかにカーブを描く杯身、杯身底面は中央部が盛り上る。杯身にくらべて細身の筒部がつく様子。	横ナデ調整。	赤褐色 良 砂粒を含む	
22-68 49-52							

表17 脇本遺跡第2次調査出土遺物観察表(4)

図番号 図版番号	種 類	器 種	出 土 地	形 態	手 法	色 焼 胎	調 成 土	備 考
22-53 50-53	土師器	高 杯	Z 区 SB1001 850330	口縁は大きく開き先端は薄く尖っている。	外面はタテヘラミガキ。杯部内面は不明、裾部内面はナデ。	茶褐色 良 小石・砂粒を多く含む。		
23-1 53-1								
23-2 51-2	須恵器	杯 蓋	Z 区 赤褐色土 (床土) 840223	口縁は大きく開き、端部で外反し先端部で広い面を持ち、口縁端直下に断面三角形の突帯が2ケつく。突帯直下には櫛描き波状紋が施される。	回転ナデ調整。波状紋直下にカキメ。	淡青灰色 良 良		
23-3 -								
23-4 51-4	〃	杯 蓋	C 区 SD2001 850329	口縁は短く垂直に下る。天井部は浅く平らで口縁との境は鋭い。	外面は上部～下部回転ナデ、底部はヘラケズリ。	淡灰褐色		
23-5 -								
23-6 51-6	〃	杯 蓋	B 区 SD2001 850329	口縁は垂直に下り、先端部はやや内傾する。天井部は浅く平扁気味、口縁との境は鋭い。	回転ナデ調整。	灰白色 断面セピア色		
23-7 51-7								
23-8 51-8	〃	杯 蓋	B 区 SD2001 850329	口縁は垂直に下るが中程で脹らみ、先端部は内傾する。	回転ナデ調整。			
23-9 51-9								
23-10 51-10	〃	杯 蓋	C 区 SD2001 850329	口縁はやや外傾気味に下る。先端部はほぼ水平。天井部は浅く平扁。	回転ナデ調整。外面は天井部に自然釉がかかっている。	青灰色 良 良		
23-11 51-11								
23-12 51-12	〃	杯 蓋	B 区 SD2001 850329	口縁は垂直に下る。先端部はわずかに内傾をみせる。天井部はやや扁平、口縁との境は鋭い。	回転ナデ調整。天井部に自然釉跡がある。	青灰色 良 良		
23-13 51-13								
23-14 51-14	〃	杯 蓋	C 区 SD2001 850306	短い口縁は垂直に下る。天井部は扁平気味だが脹らみを持つ。口縁との境は鋭い。	口縁部は回転ナデ調整。天井部はヘラケズリ。内面は回転ナデ。	青灰色 良 良		
23-15 51-15								
23-16 51-16	〃	杯 蓋	B・C区 黄褐色砂質土 850306	短い口縁は垂直に下り、天井部はやや扁平気味。全体的に厚めの器壁である。	回転ナデ、天井部はヘラケズリ。	外：暗青灰色 内：青灰色 良 砂粒を含む		
23-17 51-17								
23-18 51-18	〃	杯 蓋	D 区 850330	口縁部は垂直に下る。天井部は扁平気味。口縁との境は鋭い。	回転ナデ、天井部はヘラケズリ。	青灰色 良 小石・砂粒を含む		
23-19 51-19								
23-20 51-20	〃	杯 身	C 区 暗灰褐色土 (礫含) 850306	立ちあがり内傾し、先端部は内傾し凹面をつくる。受部はほぼ水平方向に突出している。	回転ナデ調整。外面は底部にカキメ。	青灰白色 良 好 良 好		
23-21 51-21								
23-22 51-22	〃	杯 身	C 区 SD2001 850329	口縁部はやや屈曲をみせながら立ち上り、先端部で内傾し凹面を作る。受部は水平方向に突出、丸くなって終る。				
23-23 51-23								
23-24 51-24	〃	杯 身	Z 区 暗灰褐色土 850304		やきがわるい。			
23-25 51-25								
23-26 51-26	〃	杯 身	B 区 黄褐色砂質土 850312	口縁はやや内傾しながら立ちあがり、先端部に凹面を持つ。受部は水平方向に突き出る。	回転ナデ調整。	青灰色 良 良		
23-27 51-27								
23-28 51-28	〃	觥	B 区 SD2001 850329	体部はやや扁平に脹らみ、中央部に櫛歯刺突文があり、上部に凹線がめぐる。口縁・底部は欠失している。	回転ナデ調整。刺突文・下にカキメ。外面は上部に自然釉跡。	灰白色～青灰色 良 良		
23-29 51-29								
23-30 51-30	〃	高 杯 (脚)	C 区 SD2001 850329	なだらかに開く脚部は、端で平坦面を作る。三方に長方形の透し孔がある。		青灰色 良 良		
23-31 51-31								
23-32 51-32	〃	高 杯 (脚)	C 区 暗灰褐色土 850304	脚部は端部で小さく立ち上り、面を作る。	回転ナデ調整。筒部にカキメ。	青灰色 良 砂粒を少し含む		
23-33 51-33								
23-34 51-34	〃	短頸壺 (脚)	A 区 SB1001 柱穴抜取穴 840524	やや外方に向くがほぼ直立する口縁。肩の張ったやや扁平な体部を持つ。底部は欠失しているが安定感がある。	外面は体部上方にカキメ、下部～底部はケズリ。内面は回転ナデ。内面は灰釉がかり。	暗青灰色		
23-35 51-35								

表18 脇本遺跡第2次調査出土遺物観察表（5）

図番号 図版番号	種 類	器 種	出 土 地	形 態	手 法	色 焼 胎	調 成 土	備 考
23-18	須恵器	壺	D 区 850408	丸く張った体部はやや扁平気味である。櫛描波状紋の上部に一本の凹線がめぐる。	外面は全体にタタキメ、中央部にカキメ。内面の上～中央部は回転ナデ後指ナデ、下部指頭ナデ、指頭痕あり。	白灰色 良好（密） 堅い		

表19 脇本遺跡第2次調査出土遺物観察表（6）

図番号 図版番号	器 種	出 土 地	法 量	備 考
24-1 —	有孔円板	B 区 SD2001 850313	直径約2.81cm、幅約0.41cm 孔の直径約0.18m	
24-2 —				
24-2 —	紡錘車	D 区 暗杯褐色砂質土 850313	直径約3.72cm、幅約1.51cm 孔の直径約0.80cm	
24-3 —				
24-3 —	双孔円板	B 区 土器内 850227	直径約4.4cm、幅約0.5cm 孔の直径約0.2cm	
—				

第3節 脇本遺跡第3次・第4次調査（苗田地区）

（1）はじめに

この調査区は小字苗田で、脇本地区のほぼ中央に鎮座する春日神社の西に位置している。第3次調査は昭和60年（1985）12月9日から61年（1986）2月28日、第4次調査は昭和61年（1986）11月6日から62年（1987）1月24日にかけて実施した。調査地は第1・2次調査区の東約10mの隣接地で、一段高い水田である。第3次調査では南北5m、東西30mのトレンチを入れ、東端を北へ5m四方拡張した。南側でも2ヶ所拡張し、210㎡を調査した。

第4次調査では、第3次調査区の北側を発掘し、一部重複する部分を含めて約250㎡の調査を行った。

（2）層序

第3次調査区の東西30m、南北5mのトレンチでは、耕作土（第1層 灰黒色土層（南壁）・暗灰色土層）の下には床土（第2層 赤褐色土層）が続くが南壁西半部では第1層と第2層の間に暗灰色砂質土層を含んでいる。第3層は暗灰色砂質土層（南壁では第5層に相当）で、この層の下面で中世素掘り溝を検出（第6層）。第3層からは5世紀代の須恵器、土師器片が目立って出土した。

西壁では第4層の黒色土層、第5層の暗灰色礫層、北壁では暗褐色土混暗灰色土層、南壁では第8層の黒色土層の下層が7世紀代の遺構面である。この遺構面で、東西の柱列を検出。西壁で検出したSI3001は、遺構面の直下にあり、意図的に埋められたと見られる、第14層の小石を含む暗黄色灰色土層、第15層の暗黄灰・暗黄灰褐色粘質土層が認められる。第16層の暗灰黒色土層内は炭を多く含んでいる。SI3001の北に設定したサブトレンチの第25層からは縄文土器の細片が出土した。

（3）検出遺構（図25～27、図版19～30）

竪穴建物 SI3001（図25、図版29）

調査区西端近くで検出した竪穴建物で東西約4.3mが確認できた。土師器片が多く床面に付着した状態で遺存しているが、ここにも焼土がほぼ床全面で認められた。竪穴建物（SI4002）より下層で検出した。

竪穴建物 SI4001（図25、図版24）

東西北辺4.2m、南北東辺4.3mの不整形の方形の竪穴建物状遺構。四本柱と見られるが、南西部の柱穴は後世の掘形によって破壊されている。柱穴の直径は約20～30cm。床面はほぼ全面に薄く木炭片と焼土が覆っている。西北隅近くに土師器片と共に、馬歯が数点と西片近くで焼土塊、土師器片が潰れた状態で出土している。

竪穴建物 SI4002（図25、図版30）

SI4001の北東約3mに隣接する竪穴建物。調査区が狭いため全容はつかめないが、床面に土師器片が多くみられるのはSI3001と同様である。

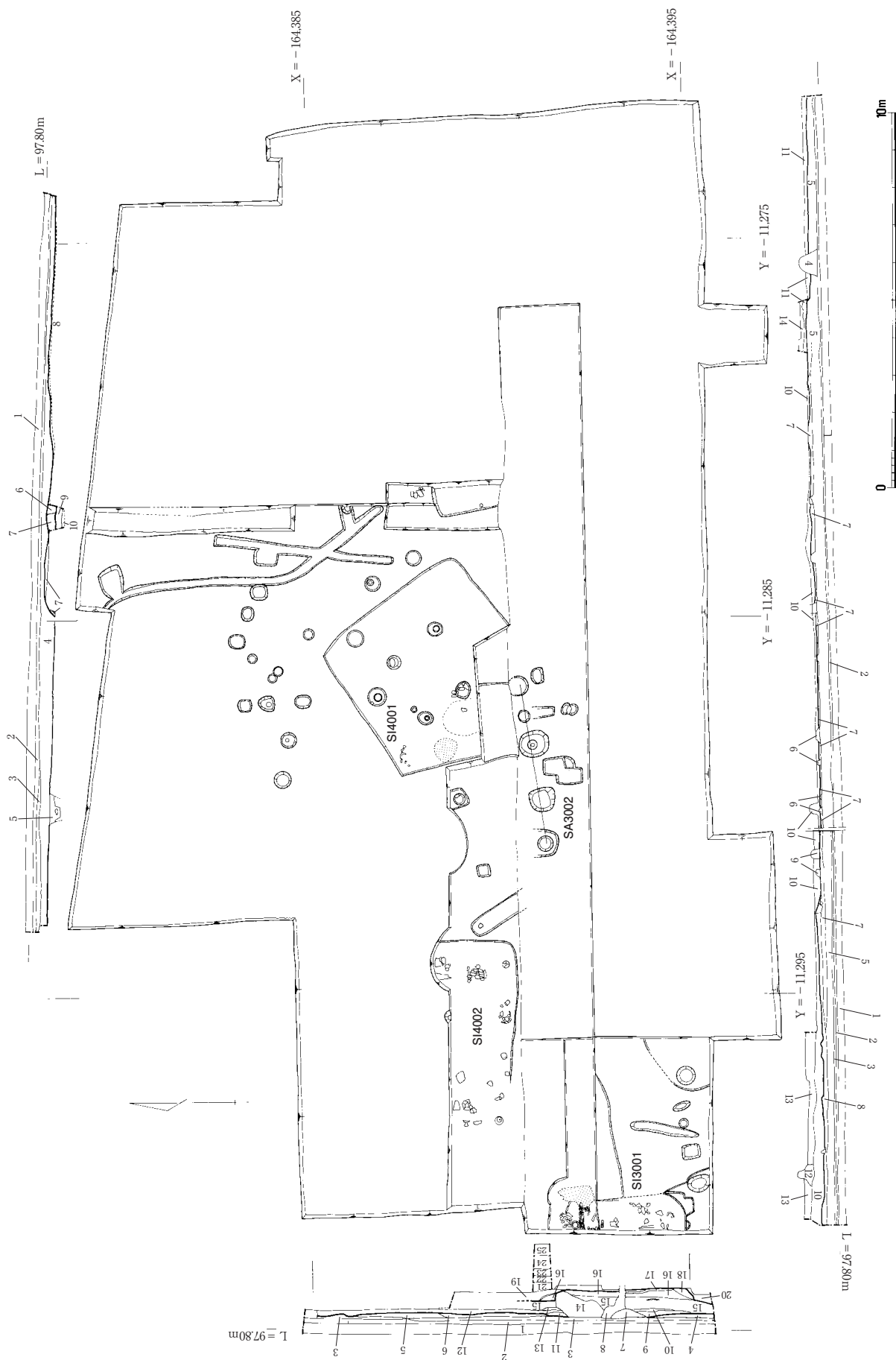


図25 脇本遺跡第3・4次調査 第1～3期 平面・断面図 (1/150)

【図25 土層名】

西壁

- 1 暗灰色土層（4次）～灰黒土層（3次）（耕作土）
- 2 赤褐色土層（床土）
- 3 暗灰色砂質土層
- 4 黒色土層（黒色土器包含層）
- 5 暗灰色礫層
- 6 暗灰色礫層（黄色土混じり）
- 7 暗褐色土層
- 8 暗灰色粘質土層
- 9 暗灰褐色土層
- 10 茶褐色土層
- 11 暗灰色土層
- 12 暗褐色砂混じり土層（4次）～暗黄灰色粘質土層（3次）
- 13 暗灰色土層
- 14 暗黄灰色土層（小石を含む）
- 15 暗黄灰・暗黄灰褐色粘質土層
- 16 暗灰黒色土層（炭を多く含む）
- 17 暗褐色土層
- 18 暗灰黒色粘質土層
- 19 暗黄灰色粘質土層（16層よりやや明るい）
- 20 暗黄灰褐色粘質土層
- 21 灰黒色土層
- 22 暗黄灰色土層
- 23 暗黄灰色砂質土層
- 24 暗黄灰色細砂層（縄文包含層）
- 25 暗灰色粘土層

北壁

- 1 暗灰色土層（耕作土）
- 2 赤褐色土層（床土）
- 3 暗灰色砂質土層
- 4 暗褐色土混暗灰色土層
- 5 暗茶褐色土層
- 6 溝（土層名の記載なし）
- 7 褐色土層
- 8 暗褐色土層（包含層）
- 9 黄灰色粘質土層（ニコ土）
- 10 暗褐色粘質土層

南壁

- 1 灰黒土層（耕作土）
- 2 暗灰色砂質土層
- 3 赤褐色土層（床土）
- 4 暗茶褐色土層
- 5 暗茶褐色砂質土層
- 6 黒色土層
- 7 暗褐色土層
- 8 黒色土層（黒色土器包含層）
- 9 黒色土層
- 10 暗黄灰・暗黄灰褐色粘質土層
- 11 暗灰褐色砂質土層（礫を含む）
- 12 暗黄褐色土層
- 13 暗黄灰褐色粘質土層
- 14 暗灰色砂質土層

柵列 SA3001（図26、図版21）

第4層（南壁）の暗茶褐色砂質土層上で検出された柵列で、東西方向の柱列である。柱列は九間（23m以上）で、柱間は2.1～2.9mと一定でない。掘形は大型のもので一辺1.2×1.6m、小型のもので一辺1.0×1.1mの規模で、柱痕跡は径25～40cm。第2次調査で検出したSB2001と方向を共通する。柱穴掘形の一つから、飛鳥時代後半の土師器片が出土していることから、これらの柱列が飛鳥時代後半以降に構築されたことが明らかになった。東端は砂利層の手前で止まっているため、調査区を2ヶ所拡張し、南に対応する柱穴の存在を追ったが検出できなかった。

柵列 SA3002（図26、図版21）

第3次調査の最終段階で検出した掘立柱列。東西三間分（4.3m）検出。柱穴掘形は一辺40～50cm。調査区内では他に対応する柱穴は見られないが、SA3001の下層からの検出であるため、北に延びる掘立柱建物の可能性もある。

柵列 SA4001（図26）

SA4001は調査区東端で検出した、南北に3基続く柱穴掘形である。さらに東に延びる東西棟の建物を想定していたが、第五次調査で延長部は検出できず、SA3001と時期を同じくする南北の柱列と考えられる。全長5mで、それぞれの柱穴掘形で、柱抜き取り痕跡を確認している。掘形の規模は一辺106cm前後の方形である。

柵列 SA4002（図26）

調査区北西端で、柱穴掘形2基を検出した。柱間は1.6mで、掘形の規模は一辺0.6～0.8mで、方位から見れば、SA4003の同時期の可能性がある。

柵列 SA4003（図26）

掘立柱建物SB4002の北に位置する、東西方向三間の柵列である。SB4002の主軸とは一致しないため、

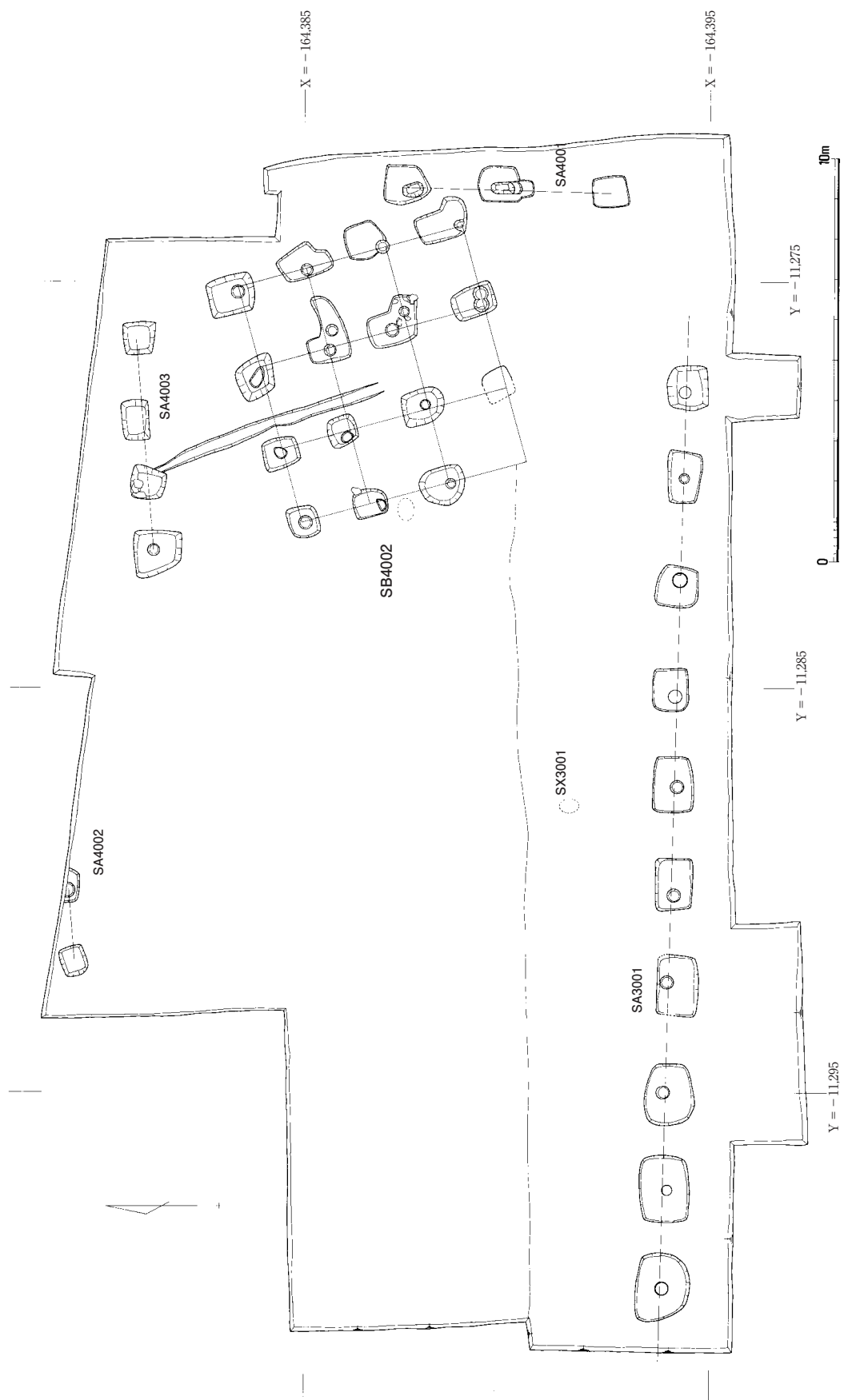


図26 脇本遺跡第3・4次調査 第4～7期 平面図 (1/150)

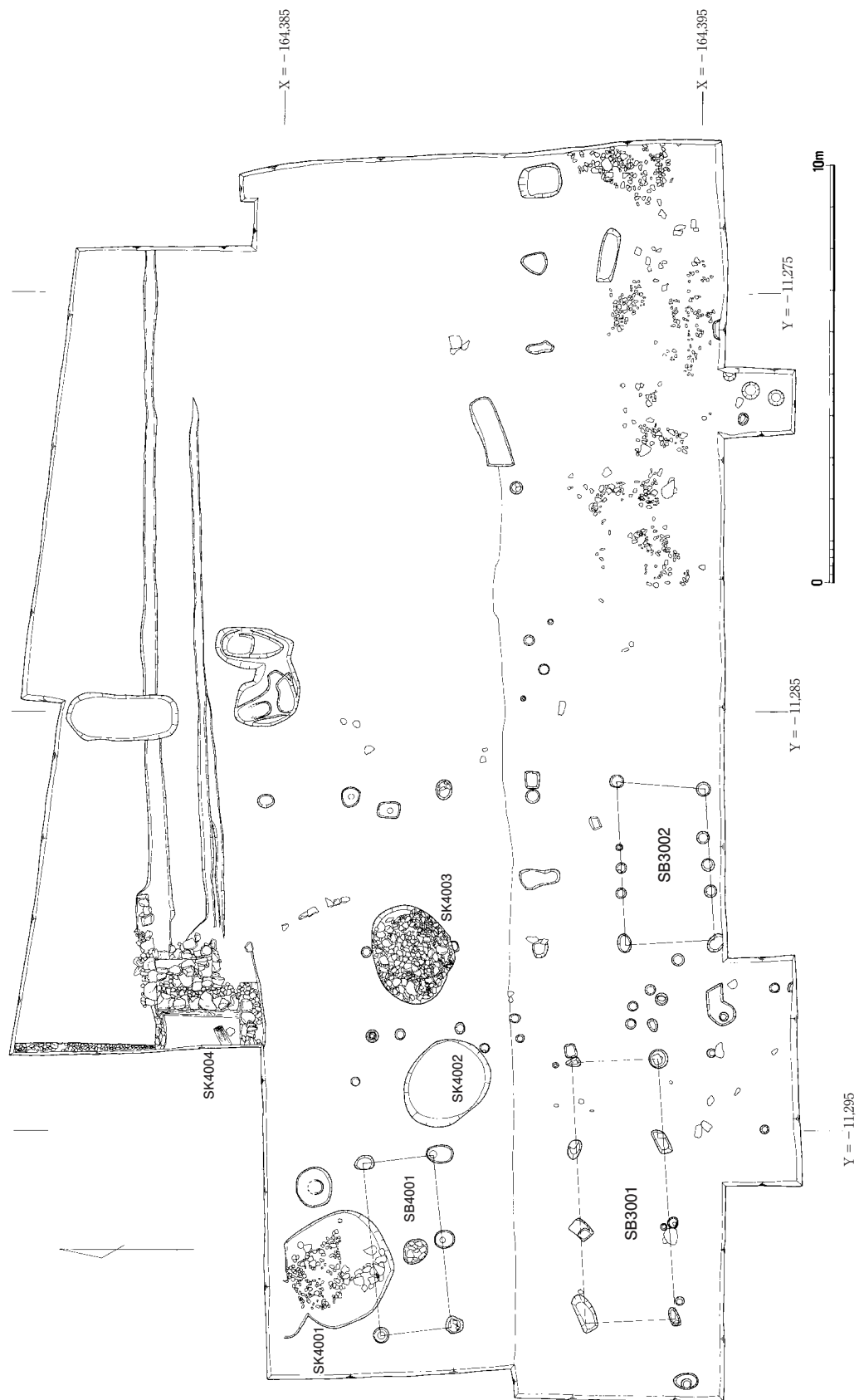


図27 脇本遺跡第3・4次調査 第8期 平面図 (1/150)

付属施設とは考えられない。おそらく調査区の北側に存在すると想われる建物に関連のであろう。柱穴掘形の規模は、西端のものが一辺120×100cmで最も大きく、他の三基は一辺85～95cmの規模。柱間は西から2.05m、次いで1.7m、1.6mと続き計5.3mになる。遺構から出土の遺物はなく、時期決定が困難である。

掘立柱建物 SB4002 (図26、図版22・25・28)

調査区東北部で検出した東西三間(約6m)、南北三間(5.5～5.7m)の総柱建物。柱間寸法は一定していないが、東西約2m、南北1.8m。柱穴掘形は一辺0.7～1m前後の方形で、柱は痕跡を留めているのみで、径20～25cmの規模。建物の方向は、北16°西。柱穴掘形内から6世紀後半の須恵器片出土している。

製塩土器群 SX3001 (図26)

第3次調査区のほぼ中央で、薄手の製塩土器の破片が約40×50cmの範囲に集積している。

円形土坑 SK4001・SK4002・SK4003・方形土坑 SK4004 (図27、図版26・27)

第3・4次調査で検出した遺構は、近世以降と見られる礫を充填した円形土坑(SK4001・SK4003)、素掘りの円形土坑(SK4002)、石垣を積んだ方形池(SK4004)などがある。SK4001は径2.8m、深さ20cmの円形土坑で、この遺構はSB4001の北側柱列を破壊しているため、SB4001以降のものである。内部に小円礫を多く含んでいる。SK4002は径2m、深さ50cmの素掘りの土坑で、内部には礫を含まない。SK4003はSK4002に隣接するほぼ同規模(径2.3m、深さ1.1m)の土坑だが、内部には円礫を充填している。用途は不明である。SK4004は第4次調査区の北西隅で検出した、石垣を積み上げた池状遺構である。また調査区の西北隅からこのSK4004に隣接する石敷き溝も確認しているが、この池への水路と見られる。池内の泥土から近世以降の陶器片が出土することから、西に隣接する民家に附属した庭内の小池と見られる。

掘立柱建物 SB3001・SB3002・SB4001 (図27、図版20)

第3・4次調査区の西寄りで、3棟の東西棟の掘立柱建物を検出。いずれも中世のもので、SB3001(2m×6m)は、梁間一間、桁行き三間で、柱間はいずれも2mの等間で、柱穴掘形は円形、長方形のものが混在している。柱の規模は径50cm前後のものである。SB3002(2m×4m)は、SB3001の東約2.5mにある同方向の建物で、梁間一間、桁行き四間の小規模な建物だが、中程の二間分の柱間が狭くなる特異な建物である。柱穴は四隅が大きく(径40cm前後)、中の6基の柱穴が小規模(径15～30cm)である。SB4001は、SB3001の北約3mに位置する建物で、梁間一間、桁行き二間で、柱間2mである。柱穴掘形は円形、長方形のものがあり、径40cm前後である。

(4) 出土遺物 (図28～32、表20～25、図版54～62)

第3次調査の出土遺物については、まず1区西土器群が上げられる。布留3期の甕、壺、高杯(図28-1・2・4・6～13、図29-7・8)が出土しており、土器群下層には竪穴建物SI3001や土坑などが見られるところから、竪穴建物などの落ち込みに伴う遺物群であろうか。図28-3・5も建物周辺の土坑内出土の甕である。

5区第4層からは、布留2式期の甕と6世紀前半代の須恵器杯が出土している。第5層からは、壺、口縁S字形鉢、甗、須恵器杯蓋、身などが出土しており、5世紀後半代と見られる。第6層からは、5世紀末の須恵器杯身が出土している。また6区第6層では、弥生時代終末期の長壺壺、平底甕、鉢などが見られ、5、6区の同じ第6層で、遺物の時期が若干異なる。

第4次調査の出土遺物については、竪穴建物SI4002からの遺物として、図30-3・5・6、図31-8・12・13・15・18・21～24が図化できた。くの字形口縁で丸底の甕が4点、高杯8点を図示している。

(5) 小結

第3次調査で検出した遺構についてまとめておくと、まず調査区西半部で中世の小規模な掘立柱建物2棟が東西に並んで見られるが(SB3001・SB3002)、その性格についてはわからない。その下層の柱間九間(23m)以上の東西に延びる柱列(SA3001)は、柱穴掘形、埋土、柱痕跡、方位などの状況から、第2次調査で検出した上層遺構SB2001と関連すると見られる。掘形内から出土した土師器片から7世紀後半以降に造られたと見られ、第2次調査区の遺構の時期とも矛盾しない。ただ柱列の性格については明らかでなく、柵もしくは塀などが考えられよう。調査区東端部で柱穴は見られないので、この調査区内で完結するのも知れない。調査区東北部の拡張トレンチで検出した建物は、第4次調査で全貌が明らかになった(SB4002)。

調査区の西端部の下層からは焼却されたと見られる竪穴建物(SI3001)を検出している。状況としては、建物を埋めた後に整地が行われているようである。

第3次調査区の北に拡張する形で設定した第4次調査区では、まず西側部分で方形池(SK4004)、円礫を充填した土坑(SK4001～SK4003)などが見られたが、いずれも近世以降のもので、現在調査区の西に隣接している民家と関連する遺構であろう。第3次調査で検出した2棟の中世の建物と関連すると見られるSB4001も、ほぼ方位を同じくしてSB3001の北側で検出した。

拡張区ではSA3001に直交すると見られる、南北二間の柱列SA4001を検出した他は、この時期の遺構は見られない。先に一部確認していたSB4002は三間四方の総柱建物で、方位は北16°西に振っている。柱穴掘形内から出土した須恵器片から、この建物が6世紀後半以降であることが明らかになり、この調査ではじめて5世紀後半と7世紀後半の建物群の間を埋める時期の遺構の存在が明らかになった。建物は総柱であることから倉庫である可能性が高い。調査区北寄りで検出した2条の柱列(SA4002・SA4003)は方位からみて同時期のものと思われるが、さらに北に広がる可能性もある。

下層からも竪穴建物を2棟検出したが、ともに住居跡とみられる。層位的に見ても明らかに時期差があり、SI4002が第3次調査で見られたSI3001と近い時期として良いのに対して、SI4001はその上層にあり、出土した須恵器片から判断して6世紀前半と思われる。

この調査区では、5世紀後半と見られる建物群は検出されていないが、各時期の遺構面、各層内から出土する遺物から検討すれば、現在まで発掘した地区の状況は以下のようになる。

まず5世紀中葉以前の集落が存在していたことは、下層の住居と見られる竪穴建物や、第3次調査で検出した土壙、出土遺物から知られるが、この時期、もしくは直後に盛り土整地が行われ、掘立柱

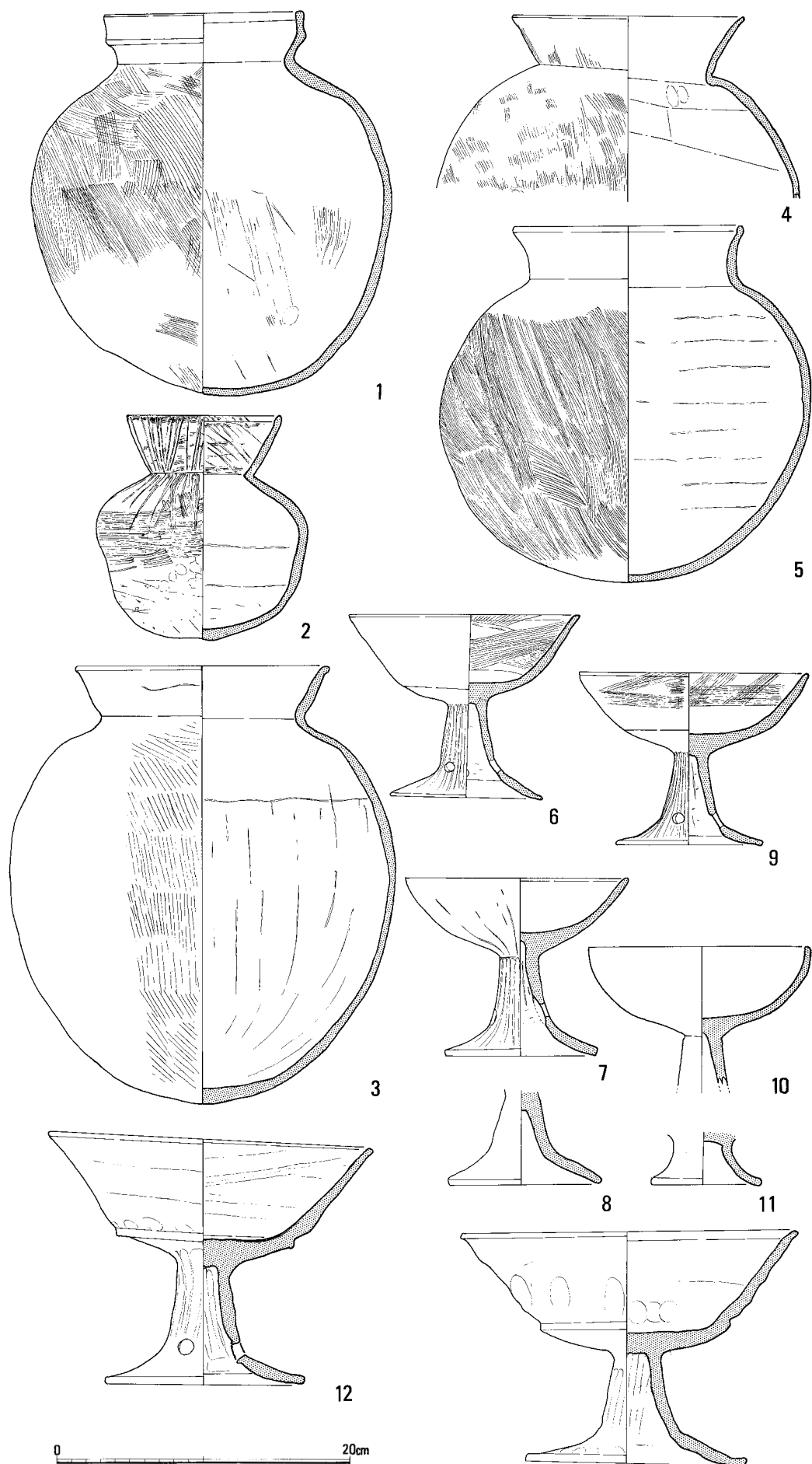


図28 脇本遺跡第3次調査出土遺物 (1) (1/4)

1・2・4・6～13: 1区西・土器群 3・5: 1区

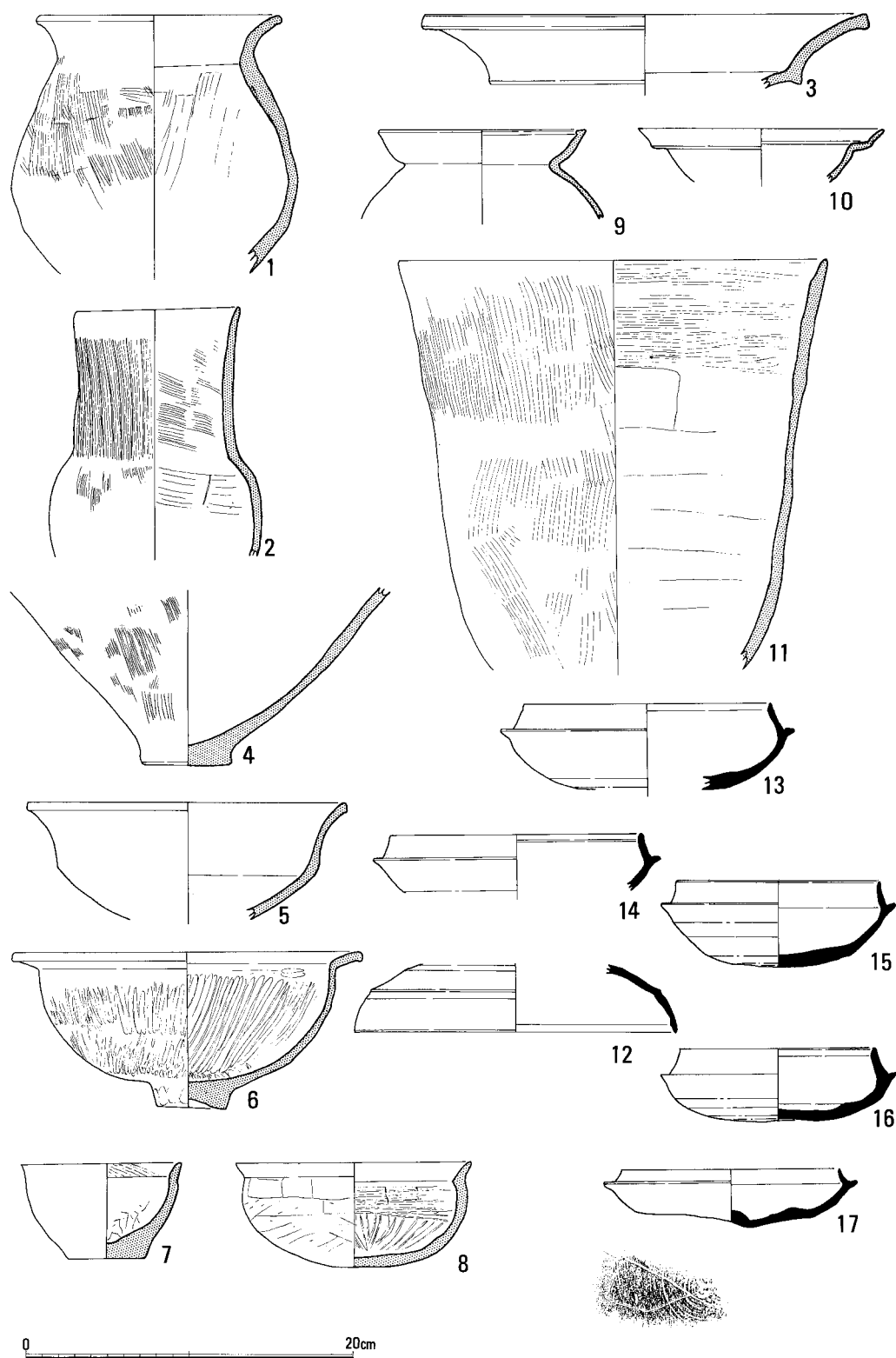


図29 脇本遺跡第3次調査出土遺物(2) (1/4)

1・3・9～17: 5区 2・4～6: 6区 7・8: 1区

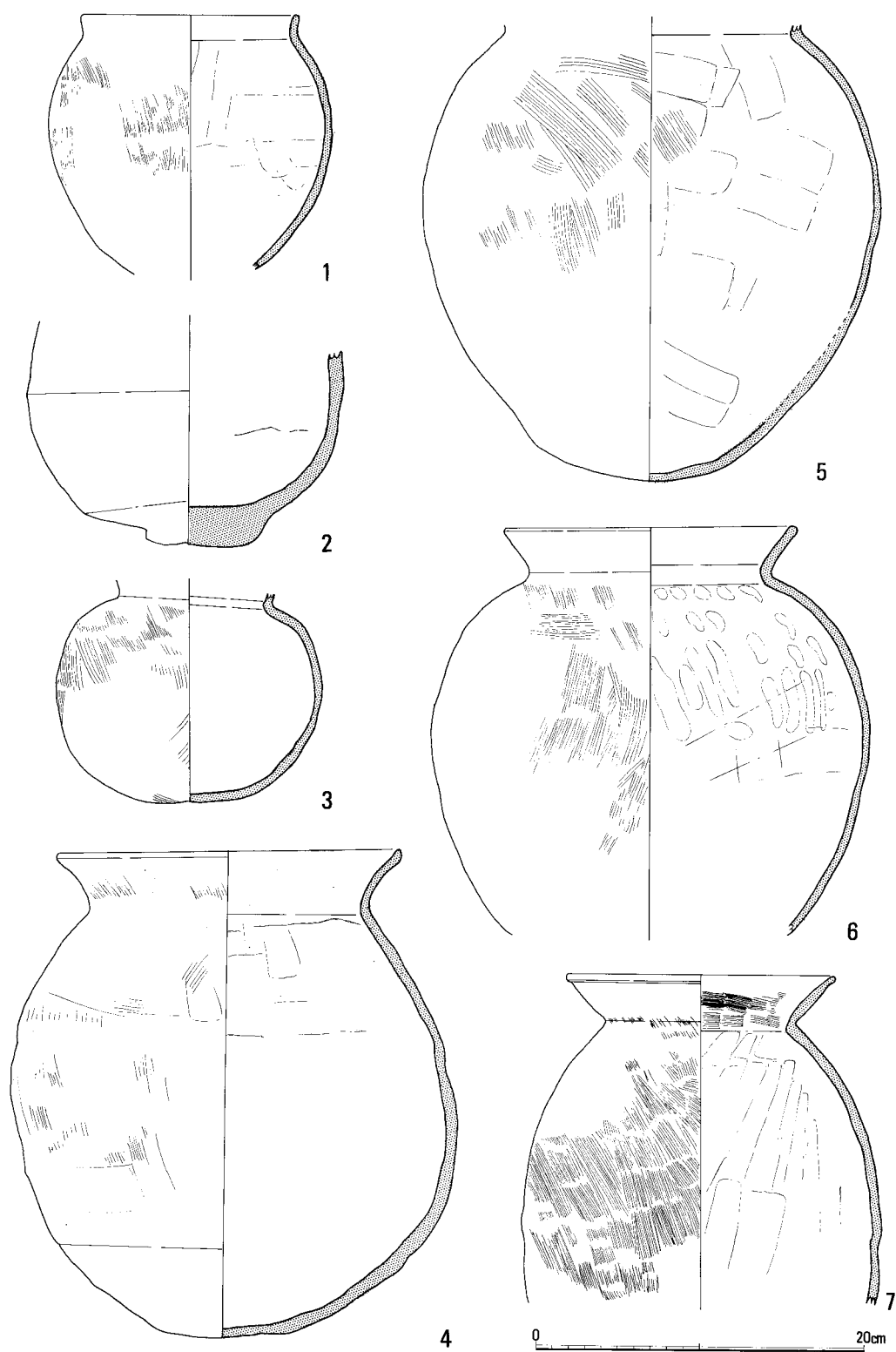


図30 脇本遺跡第4次調査出土遺物 (1) (1/4)

1 : 6 A 2 : 不明 3 : 2 A SI4001 4 : 不明 5・6 : 3 A SI4001 7 : 5 A

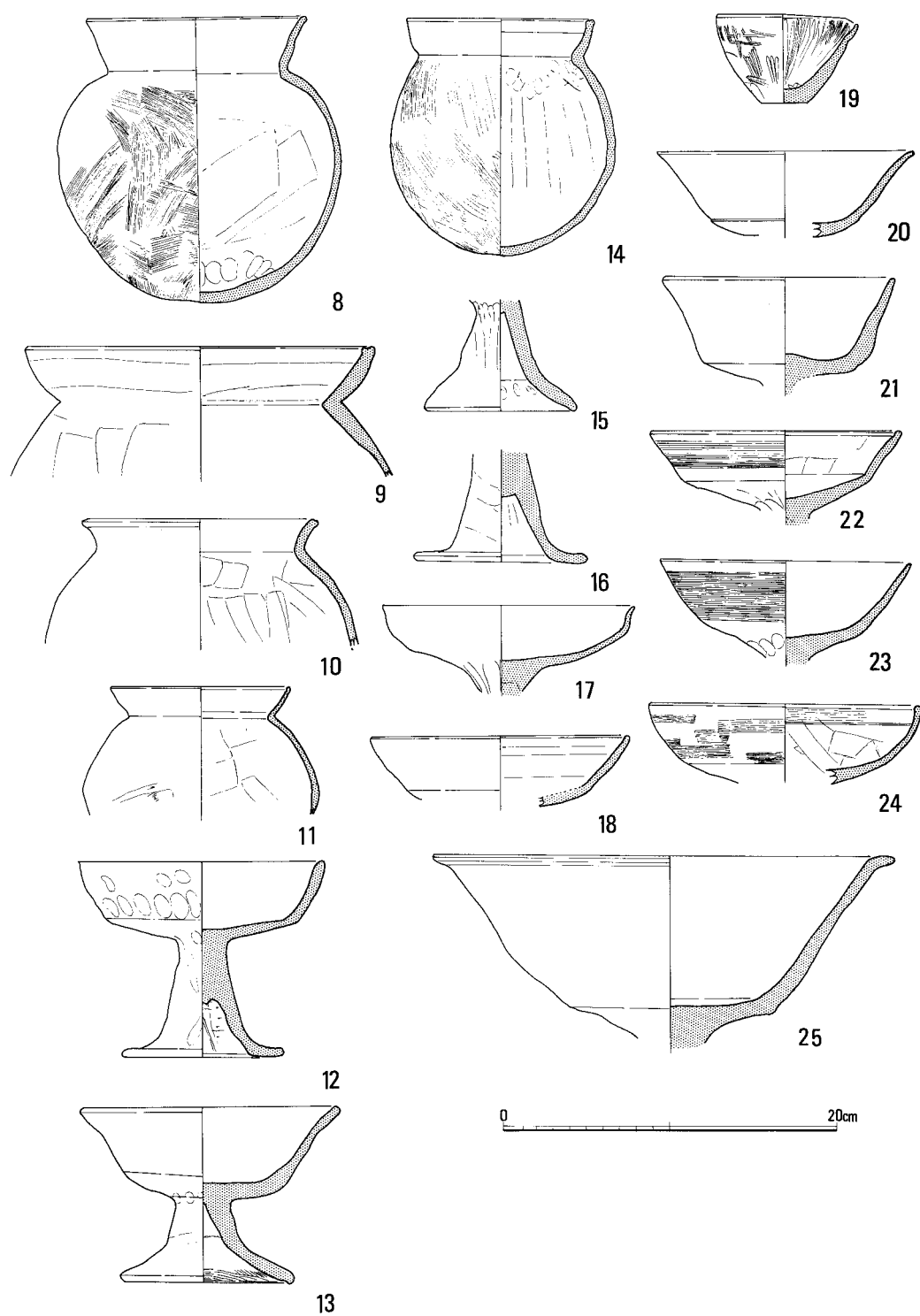


図31 脇本遺跡第4次調査出土遺物（2）（1／4）

8：2 A 土器群 9・10：不明 11：7 C 12・18・23・24：3 A SI4002 13・15：2 A SI4002 14：4 A
16・17：不明 19：不明 20：10 D 21・22：2 A SI4002 25：不明

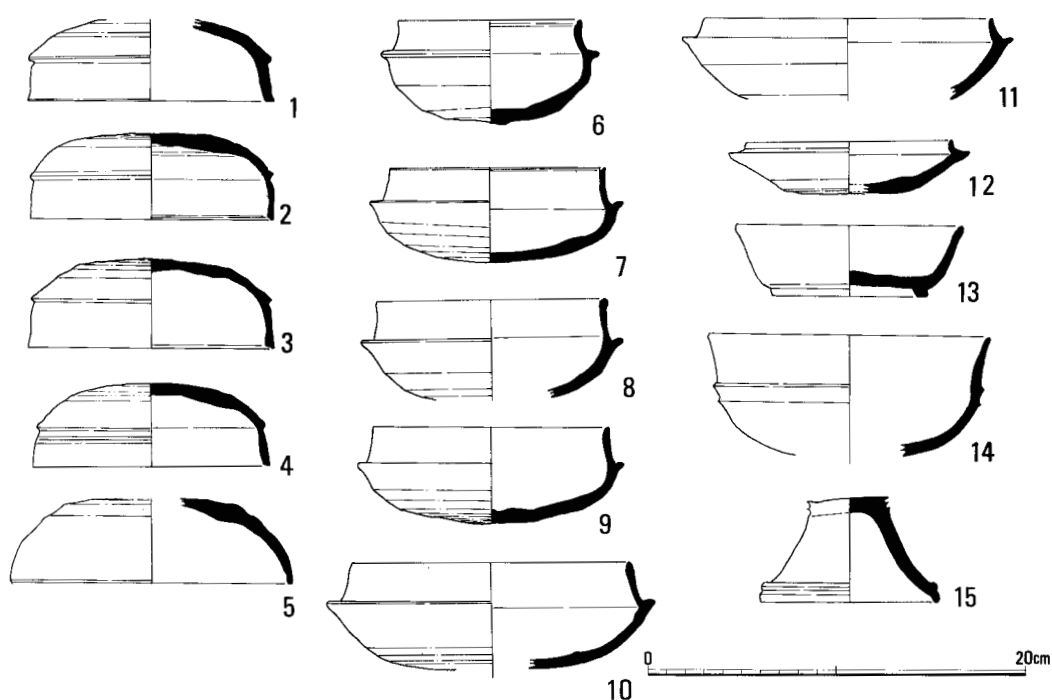


図32 脇本遺跡第4次調査出土遺物（3）（1／4）

1・15：中央3 2～6：不明 7・14：8C 8・9・11：不明 10：4A 12：5B 13：3A

建物群が建てられる。その建物群には、大規模な建て替えなどは見られず、ほぼ一時期で機能を終えた後、5世紀末ないし6世紀前半代には、製塩土器の集積遺構、滑石製品を出す遺構、馬歯を出土する竪穴住居状遺構などが存在する。さらに6世紀後半になり、倉庫と見られる建物（SB4002）が現れる。

SA4002・SA4003の時期が不明だが、これに続く可能性もあり、第2次調査で検出した7世紀後半の掘立柱建物（SB2001）、第3次調査で明らかになった掘立柱列（SA3001）へと変遷してゆく姿をたどることができる。（清水）

表20 脇本遺跡第3次調査出土遺物観察表（1）

図番号 図版番号	種 類	器 種	出 土 地	形 態	手 法	色 焼 胎	調 成 土	備 考
28-1 54-1	土師器	甕	1 区 西・土器群 860217	口縁は屈曲してのち直立する二重口縁の形態を持つ。端は丸い。体部はやや肩が張っている。	口縁部は内・外面共にナデ。体部は外面ハケ、内面イタナデ、ヘラケズリ。	灰褐色 良 い 0.5～2mm位の白色の砂を全体に多く含む		
28-2 54-2								
28-3 54-3	〃	壺	1 区 西・土器群 860217	斜め外方に直線的に伸びる長い口縁。体部は肩が張り、全体的に凹凸している。	口縁部は内・外面共にヘラミガキ。胴部は外面イタナデ、内面イタナデ。底部は外面ヘラケズリ、内面イタナデ。	赤褐色 良 い 1～2mm位の砂を多く含む		
28-3 54-3								
28-3 54-3	〃	甕	1 区 860221	くの字形に外反する口縁、口縁端は外方に屈曲する。肩の張らない体部を持つ。	口縁部は内・外面共にヨコナデ。体部は外面ハケ、内面タテヘラケズリ。	淡黄褐色土 良 い 密		
28-3 54-3								

表21 脇本遺跡第3次調査出土遺物観察表(2)

図番号 図版番号	種 類	器 種	出 土 地	形 態	手 法	色 調 焼 胎 成 土	備 考
28-4 54-4	〃	甕 (口縁)	1 区 西・土器群 860217	斜め外方に直線的に伸びる口縁、口縁端はやや外反する。体部はあまり張らないとみられる。	口縁部は内・外面共にナデ。体部は外面ハケ、内面ヘラケズリ。	淡橙白色 良 い 1mm大の白色小石粒を多量に含む	
28-5 54-5	〃	甕	1 区 860221	直立する口縁は端部で屈曲し外反する。大きく丸く張った体部を持つ。	口縁部は内・外面共にヨコナデ。体部は内・外面にハケ、内面には粘土ヒモの接合痕がみられる。体部外面中央に10m程の黒斑。	淡暗赤褐色～淡黄褐色 良 い 粗	
28-6 54-6	〃	高 杯	1 区 西・土器群 860217	杯部は底部からややカーブして外反して伸びる。柱状の筒部はやや中腹らみで三方に透孔がある。なだらかに開いた裾部の端は薄く尖り気味に終る。	杯部は内面から外面上部にかけてハケ、外面下部はナデ。脚部は外面ヘラミガキ、内面ヘラケズリ。脚端部はナデ。	内面：褐色 外面：赤褐色 断面：赤褐色 0.5～1mmの細砂を全体に含む	透孔 3
28-7 55-7	〃	高 杯	1 区 西・土器群 860217	杯部はカーブを描いて伸びる。浅めの杯である。すらりと伸びる細身の筒部、二方に透し孔がある。裾部の端は平坦面を作っている。	杯部は内・外面共にナデ。脚部は外面ヘラミガキ、内面ヘラケズリ。脚端部はナデ。杯部外面に放射線状のヘラ先沈線。	杯部：赤褐色 脚部：乳橙色 良 い 0.5～1mmの細砂を全体に多く含み、2mmの粗粒砂を少量含む。	透孔 2
28-8 55-8	〃	高 杯 (脚)	1 区 西・土器群 860217	細い筒部で裾部はやや腹らみを持ち、端部には面を作る。	内・外面共にナデ。	淡灰橙色 良 い 密・白色砂粒微量含む	
28-9 55-9	〃	高 杯	1 区 西・土器群 860217	杯部はカーブを描いて伸びる。細身の筒部には三方透し孔がある。裾部は水平気味に開く。	杯部は内面から外面上部にかけてハケ、外面下部はナデ。脚部は外面ヘラミガキ、内面ヘラケズリ。脚端部はナデ。	赤褐色 良 い 密 0.5～2mmの砂を多く含む	透孔 3
28-10 55-10	〃	高 杯 (杯部)	1 区 西・土器群 860217	杯部は丸くカーブを描く。端部は丸味をおびている。細身の筒部が伸びるとみられる。	全体的にナデ。	淡橙色 良 い 密 白色砂粒少量含む	
28-11 55-11	〃	器 台 (脚)	1 区 西・土器群 860217	やや内傾にカーブする短い器台で、端部には面を作る。	全体的にナデ。	暗白色 良 い 密	
28-12 55-12	〃	高 杯	1 区 西・土器群 860217	杯部は底部との境に平坦面をなし、外方に真すぐ開く。筒部に透し孔がある。裾部は水平気味に開く。端部に面をつくる。	杯部は内・外面共に荒い目のヨコナデ、稜の部分には強いナデ。脚部外面から脚端部内面にかけてはナデ。脚部内面はヘラケズリ。	橙茶褐色 良 い 0.2～3mm大の白色の砂を全体に含む	
28-13 56-13	〃	高 杯	1 区 西・土器群 860217	杯部と底部の境にくぼみがあり、杯部は凹凸をみせながら外方へ伸び、端部に平坦面を作る。筒部はすらりと伸び、裾部はふくらみを持ち端部で水平に開いて面を作る。	杯部は弱い縦横方向のナデ。脚部上方は内・外面ともヘラケズリ、下方は内外面ともヨコナデ。ただし外面には指おさえ痕もみられる。	橙茶褐色 良 好 密 0.1～0.2mmの白い砂粒を含む	
29-1 56-1	土師器	壺	5 区 860201	くの字形に外反する口縁、端部に面をつくっている。下腹らみの体部を持つ。	口縁部は内・外面共にナデ。体部は外面上部にナナメハケ、下部にナデ。内面はナナメに板ナデの後、やや左上がりの横方向にナデ。	外面：淡橙色、部分的にススの付着がみられる 内面：淡灰橙黄色 良 い 灰色及び白色の砂粒を多量含む	
29-2 56-2	〃	長頸壺	6 区 6 層 860116	口縁はほぼ直立し、端部でわずかに外反をみせる。頸部は長くやや腹らみを持つ。胴部は小さく腹らむ。底部は欠失している。	口縁部はナデ。頸部から体部にかけて内・外面共にハケ。体部外面はハケ目がほとんど磨滅している。	灰橙色 良 い 密 白色小石粒が少量、黒色微砂粒が含まれる	
29-3 57-3	〃	壺 (口縁)	5 区 5 層 860108	大きく外反する二重口縁で、屈折部外面には凸帯状に突き出ている。口縁端は面をなしている。	ナデ。	淡橙褐色 ほぼ良好 密 白色砂粒を微量含む	

表22 脇本遺跡第3次調査出土遺物観察表(3)

図番号 図版番号	種 類	器 種	出 土 地	形 態	手 法	色 調 焼 成 胎 土	備 考
29-4 56-4	〃	壺 (底部)	6 区 6 層 860116	大きく脹らんだ胴部と思われる。 底部は突出し安定している。体部の 器壁は薄い。	体部外面はかなり磨減 しているが、ハケであ る。底部はナデ。内面 は板ナデ。	外面及び断面：淡灰桃 黄色 内面：黒灰色 良 い 白色砂粒、黒色砂粒を 多量に含み、2～3mm の白色小砂粒を少量含 む	
29-5 57-5	〃	鉢	6 区 6 層 860116	口縁は外反し、端部で面をつくり 大きく開く。	内・外面共にナデ。	淡橙色、断面は灰色 ほぼ良好 白色砂粒及び小石粒 を少量含む	
29-6 56-6	〃	鉢	6 区 6 層 860116	口縁はほぼ水平方向に外反し、端 部に平坦面をつくる。あげ底の突 出した底部を持つ。	口縁部及び底部はナ デ。体部は内・外面共 にヘラミガキ。底部に は指圧痕がみられる。	暗橙色 良 い 白色砂粒、黒色微砂粒 を少量含む	
29-7 56-7	〃	鉢	1 区 中央部 860220	口縁は短く外反する。底部は原く 平らで安定している。	外面はナデ。内面は口 縁部がハケ、体部は板 ナデ。	外面：褐色 内面：黒褐色 やや良いい 全体的に1～4mmの砂 粒を含む	
29-8 56-8	〃	鉢	1 区 5 層 871215	口縁は短く外反し、端部は薄く尖 り気味。体部は扁平気味の浅鉢で ある。	口縁部はナデ。外面は ヘラケズリ。内面はヘ ラミガキ。	乳橙色 良 い 全体的に微砂粒を多く 含み、2mm大の砂を少 量含む	
29-9 —	〃	甕 (口縁)	5 区 4 層 851221	ややカーブを描きながら外反する 口縁。口縁端はつまみだされ、内 側は肥厚する。	口縁部及び外面はナ デ。内面は板ナデ。	外面及び断面：淡灰橙 色 内面：淡橙色 良 い 白色砂粒、黒色微砂粒 を少量含む	
29-10 57-10	〃	壺 (口縁)	5 区 5 層 860108	口縁はカーブを描きながら外反し、 中程で水平方向に少し伸びた後屈 曲し、さらに外反する。二重口縁 の形態を持つ。	内・外面共にナデ。	暗橙色 良 い 密	
29-11 57-11	〃	鉢	5 区 5 層 860113	口縁は外方に真っすぐ伸び、端部 は薄く尖り気味に終る。体部より 口縁の径の方が大きく非常に長形 の鉢である。	外面はハケ。内面は口 縁付近が横ハケ、その 下は板ナデ [※]	淡橙色 良 い 白色砂粒微量含む	
29-12 57-12	須恵器	杯 蓋	5 区 5 層 860108	口縁は脹らみを持ちながら下る。 端部で内傾面を持つ。天井部との 境は小さく鋭い。	外面上部はヘラケズ リ。その他は全体的に ナデ。	灰 色 良 い 白色微砂粒微量含む	
29-13 57-13	〃	杯 身	5 区 4 層 851225	立ちあがりは内傾し、端部は鋭く 内傾面を持つ。受部は水平に突出 し鋭さはない。体部は扁平である。	外面底部に軽いヘラケ ズリ。その他は全体的 にナデ。	外面及び内面：暗青灰 色 断面：赤紫灰色 良 い 白色砂粒、小石粒微量 含む	
29-14 57-14	〃	杯 身	5 区 5 層 860108	立ちあがりは内傾し、端部は内傾 面を持つ。受部は水平に突出し鋭 さはない。	外面底部にヘラケズ リ。その他は全体的ナ デ。	淡灰色 良 い 白色微砂粒少量含む	
29-15 57-15	須恵器	杯 身	5 区 5 層 860108	やや内傾して立ちあがり、端部は 薄くなる。受部は外上方に突出し 鋭さはない。底部はやや平坦。	口縁部及び内面はナ デ。外面返しの直下は 軽いヘラケズリ。底部 はヘラケズリ。	外面：暗青灰色 内面：青灰白色 良 い 白色微砂粒を微量含む	
29-16 —	〃	杯 身	5 区 6 層 851221	立ちあがりは内傾し、端部は鋭い 内傾面を持つ。受部はやや外上方 に鋭く突出する。やや浅めの体部。	口縁部及び内面はナ デ。外面は軽いヘラケ ズリ。	外面：青灰色 内面：淡灰色 良 い 白色微砂粒、白色小 石粒を微量含む	
29-17 57-17	〃	杯 身	5 区 北 860220	立ちあがりは内傾し、端部は薄く 尖って終る。受部は水平方向に突 出し鋭さはない。体部は浅く凹凸 した形である。	外面底部はヘラケズ リ。その他は全体的に ナデ。	外面：暗青灰色 内面及び断面：灰色 良 い 白色微砂粒を少量、白 色小石粒を微量含む	

表23 脇本遺跡第4次調査出土遺物観察表(1)

図番号 図版番号	種 類	器 種	出 土 地	形 態	手 法	色 調 焼 胎 成 土	備 考
30-1 58-1	土師器	壺	6A 861121	外方に真すぐ伸びるごく短い口縁。体部は肩が張らずすらりと丸い形を持つ。	口縁部ナデ。外面上部はハケ、下部はナデ。内面は板ナデ。内面には粘土継痕がみられる。	外面：暗橙色 内面：暗黄白色 体部に一部スス付着 良 好 白色砂粒少量含む	
30-2 58-2							
30-3 58-3	〃	壺	861127	短く突出した底部を持ち、体部はあまり張らない。	内・外面共にナデ。	淡橙色 部分的に灰色がかっている 良 好 白色、淡灰色の小石粒を多量含む。3～5mm大のものもかなり目立つ	
30-4 58-4							
30-5 58-5	〃	壺	2A SI4002内西 861225	やや扁平な体部。	口縁部及び体部内面はナデ。体部外面はハケ。	外面肩部から内面上半分に掛けて淡橙灰色。外面体部及び内面下半分スス付着し黒褐色。外面底部橙色 良 好 白色砂粒、灰色砂粒を多量に含む	
30-6 58-6							
30-7 58-7	〃	甕	861225	くの字形口縁。肩は張らず下脹らみの体部。底部はやや平坦。	外面は口縁部から体部中ほどまでハケ、下の方にナデ。底部にカゴ目。内面に板ナデ。	淡黒褐色 良 好 白色小石粒少量含む	
30-8 58-8							
30-9 58-9	〃	甕	3A SI4002内中央 861225	大きく張った胴部は丸底へとつづく。口縁部欠失。	口縁部はナデ。外面上部はハケ、下部はナデ。内面は板ナデ。	淡黒褐色 部分的にススで黒みがかったりしている 良 好 黒色砂粒、白色砂粒多量に含む	
30-10 58-10							
30-11 58-11	〃	甕	3A SI4002内東土器群 861225	外方に真つすぐに伸びる短い口縁。体部は大きく張り、底部は欠失している。	口縁部は内・外面共にナデ。体部外面はハケ、内面はヘラケズリ、多く指頭圧痕がみられる。	橙褐色 胴部に大きく黒変の箇所 良 好 1mm位の細砂を多量に含む	
30-12 58-12							
30-13 59-7	〃	甕	5A 861218	くの字状に外反する口縁、口縁端は面を作る。体部はあまり張らず胴長である。	口縁部内面上部及び外面はナデ、内面下部は横ハケ。体部外面はナメハケ、内面は板ナデ。	橙褐色 細かい赤褐色斑が全体にある 良 好 白色砂粒、黒色微砂粒を多量に含む	
30-14 59-8							
31-8 59-8	〃	甕	2A SI4002西土器群 861225	口縁は中央で屈曲しながら外反する。体部はあまり張らず丸底の底部を持つ。	外面は口縁部横ナデ、体部ハケ、底部はナデ消される。内面は板ナデ。底部指頭ナデ、指頭圧痕あり。	淡黒褐色 良 好 良 黒色砂粒少量、白色砂粒を多量含む	
31-9 62-9							
31-10 62-10	〃	壺 (口縁)	861119	ややカーブを描きながら外反する口縁。先端部にくぼみを持つ。	口縁部端部は横ナデ、内・外面及び肩部外面は板ナデ。肩部内面はナデ。肩部には部分的にハケの痕跡がみられる。	淡橙黄色 良 好 黒色微砂粒、白色砂粒多量に含む。灰色砂粒少量含む	
31-11 62-11							
31-12 62-12	〃	甕	861216	短く外反する口縁。体部はあまり張らないようす。	外面は横ナデ。内面は口縁部が横ナデ、頸部が横板ナデ、体部が縦板ナデ。	淡橙色 良 好 良 白色砂粒、黒色微砂粒少量含む	
31-13 62-13							
31-14 62-14	〃	甕	7C 第3層 861119	ややカーブを描きながら外反する口縁。胴部が角ばった張りを持つ。全体的に器壁が薄。	外・内面共に口縁ナデ。体部板ナデ。	外：淡橙黄色内：淡橙緑色良 好 良 白色砂粒少量含む	
31-15 59-12							
31-16 59-13	〃	高 杯	3A SI4002内東土器群 861225	杯部はやや浅く、口縁部は直立気味で端部は太く丸く終る。筒部は中程で脹らみ、下半でわずかにすばまって裾部につづく。裾部は水平に開き端部で面を作る。	外面ナデ調整、杯部指頭圧痕多数。内面の杯部は表面がハク離れている。脚部はヘラケズリ。	明橙褐色 良 好 1mm～4mmの白色の砂を多量に含む	
31-17 59-14							
31-18 59-15	〃	高 杯	2A SI4002内西 861225	杯部は平坦な底部から外反して伸び、口縁部で屈曲をみせさらに外反する。短い筒部は中程で脹らみを持つ。大きく開く裾部は端部で内傾に凹線を持つ。	外面は横板ナデ調整。内面は口縁横板ナデ、杯身板ナデ。	橙色 良 好 良 白色砂粒、黒色砂粒を含む	
31-19 59-16							

表24 脇本遺跡第4次調査出土遺物観察表(2)

図番号 図版番号	種 類	器 種	出 土 地	形 態	手 法	色 焼 胎	調 成 土	備 考
31-14 59-14	土師器	甕	4A 壁面土器 870107	ややカーブを描きながら直立する口縁。体部はあまり張らない。	外面は口縁横ナデ、頸部うすくハケ痕、胴部～底部ハケメ。内面の口縁はこまかいハケ、体部ヘラケズリ、底部は未調整。	暗橙色 良 好 良 白色微砂粒含む		
31-15 59-15	〃	高 杯 (脚部)	2A SI4002内西 861225	筒部はすらりと伸びて、裾部はやや脹らんだカーブをみせ端部で小さく面をなす。	外面は軽く横ヘラケズリ。内面は筒部ヘラケズリ、裾部横ナデ。	外：橙色 内：暗橙色 断面：灰色 良 好 良 黒色・白色砂粒少量含む		
31-16 60-16	〃	高 杯 (脚部)	861216	やや中脹らみの筒部で、裾部は水平方向に開き端部で面を作る。	外面は筒部が左上がりのナナメ方向ナデ。内面はヘラケズリ。裾部は内・外共に回転ナデ。	桃橙色 良 好 良 黒色微砂粒多、白色砂粒微量含む		
31-17 60-17	〃	高 杯 (杯部)	861117	杯部は浅く口縁部は屈曲して立ち上がり、端部で外反する。	外面は回転ナデ、底部ナデ。内面は回転ナデ。	淡赤橙色 良 好 良 黒色微砂粒多、白色砂粒微量含む		
31-18 60-18	〃	高 杯 (杯部)	3A SI4002内 東土器群 861225	底部から外方に直線的に伸び大きく開く杯部である。	外面はナデ。内面は口縁端ナデ、体部板ナデ、底部ハクリ。	暗橙色 断面：黒灰色 良 好 良 白色砂粒及び小石粒・黒色砂粒		
31-19 60-19	〃	小 鉢	861224	口縁はややカーブを描きながら外反する。底部は平坦で安定している。	外・内共にヘラミガキ。	外：暗橙色 内：黒褐色 良 好 良 白色微砂粒、黒色微砂粒		
31-20 62-20	〃	高 杯 (杯部)	10D 第3層 861219	杯部は底面からなめらかに外反して伸びる。	外・内共にナデ調整。	淡橙色 良 好 良 白色砂粒微量含む		
31-21 60-21	〃	高 杯 (杯部)	2A SI4002内 861225	中央部が盛り上った底面から立ち上り口縁部で外反する。深めの杯部。	外・内共にナデ調整。	橙色 断面：濃灰色 良 好 良 白色砂粒微量含む		
31-22 60-22	〃	高 杯 (杯部)	2A SI4002内 西土器群 861225	杯部底面から外反して伸びる。口縁部で内側に肥厚する。浅めの杯部。	外面は口縁端ナデ、口縁ハケ、体～底部ナデ。内面は板ナデ調整。口縁端はナデ。	白橙色 一部黒灰色 断面：黒灰色 良 好 白色砂粒、黒色微砂粒多量に含む。灰色砂粒微量含む		
31-23 60-23	〃	高 杯 (杯部)	3A SI4002 東土器群 861225	杯部底面から外方に向ってややカーブを持ちながら直線的に伸びる。杯部 端部は薄くなっている。	外面は口縁ナデ、中央部ハケメ、底部ナデ調整。内面は口縁ナデ、中央部～底部はハクリしている。	暗橙色 一部黒褐色 良 好 黒色砂粒少量、白色砂粒及び小石粒多量に含む		
31-24 62-24	〃	高 杯 (杯部)	3A SI4002内 中 央 861225	杯部は丸くカーブを描いて、端部で内側に肥原する。	外面は口縁端ナデ、口縁～中央部横ハケ、底部ナデ。内面は口縁端ナデ、口縁横ハケ、体～底板ナデ。	明橙色 良 好 良 白色砂粒、灰色砂粒少量含む		
31-25 60-25	〃	高 杯 (杯部)	861127	杯部底面から外反して伸び口縁端は水平方向に伸び面を作る。大型の高杯とみられる。	全体にナデ調整。	淡橙色 良 好 良 白色微砂粒少量含む		
32-1 61-1	須恵器	杯 蓋	中央3 南 861111	口縁は垂直に下り、天井部との境は鋭い。	口縁部は回転ナデ。外面上部はヘラケズリ。内面上部は横ナデ。	内面：淡青灰色 断面：淡赤灰色 外面：黒青灰色 良 好 白色微砂粒少量含む		